自分専用のセリフをどんどん作ってみよう

LineMaster

セリフでマスター！ 英語・英会話習得法のすべて

医薬翻訳者・通訳者
渡邉 英喜 著

英会話上達の秘訣は「英語劇」にあった！

ロフティ出版

目次

はじめに ----------3
英語劇が原点となったラインマスター ----------6
「会話」の本質を知ると気が楽になる ----------8
ラインマスター式英語・英会話習得法のメリット---------- 10
ラインの定義（＝自分専用のセリフ） ---------- 12
パーツの定義（＝英語の慣用的な最小単位） ---------- 15
フォームの定義（＝英語の定番の骨組み） ---------- 17
「ライン」「パーツ」「フォーム」のまとめ ---------- 19
なぜ英語を話すことが出来ないのか ---------- 20
初対面で会った人に声をかけられるか？ ---------- 33
ラインマスター式スピーキングの特長 ---------- 35
ラインマスター式スピーキングの実践 ---------- 39
①　自分の英会話の分析とライン想定 ---------- 40
②　ラインの作成（定番の型にあてはめる） ---------- 53
③　ラインの記憶と発音練習【ここが一番重要】---------- 55
ネイティブらしい自然な発音を手に入れるには？---------- 59
英語のラインを英語らしく発音するコツ---------- 60
④　ラインを用いた英会話実践【ここも重要】---------- 64
なぜ英語を聴き取れないのか？ ---------- 75
「包括的なリスニング力」の欠落 ---------- 76
英語の研究家にならないこと ---------- 78
通訳者はどのようにして英語を聴き取っているのか ---------- 80
実際の英語音声を使った説明 ---------- 83

聴き取れた語句・表現から推測するリスニング---------- 85
聴き取れた語句・表現から内容を推測するコツ---------- 89
日本語に近い感覚で聴き取れるようになるには---------- 92
疑心暗鬼にならないこと---------- 94
「生の英語音声」を使った聴解トレーニング---------- 95
リスニング向け YouTube 英語動画のジャンル---------- 96
YouTube 英語動画の検索時の注意事項とコツ---------- 99
CC（クローズド・キャプション）について---------- 100
文字起こし機能の使い方---------- 101
YouTube 動画の再生速度を変えるには---------- 102
YouTube 英語動画を使ったリスニング練習の実践---------- 103
おわりに ---------- 105

はじめに

はじめまして、医薬通訳者・翻訳者の渡邉英喜（わたなべ・ひでき）と申します。この度は「**セリフでマスター！英語・英会話習得法のすべて**」をご購入頂きまして誠にありがとうございます。

本書では、今英語をうまく話すことが出来ない…あるいは自信をもって聴き取ることが出来ない…といったことで日頃から悩まれている英語学習者を対象に、一体「何を」「どのようにすれば」英語が話せるようになるのか、そして聴き取れるようになるのか、その秘訣とヒント、コツを中心に、具体的な英語習得のノウハウについて詳しくお話しさせて頂きたいと思います。

特に「英語劇」が原点となった、私のオリジナルの英語習得法である「**ラインマスター式」メソッド**について詳しく、かつ分かりやすく解説させて頂きますので、ぜひあなたの英語学習のヒントとして、またガイドとしてお役立て頂ければ大変嬉しく思います。

また、この書籍には購入者特典としてウェブセミナーやメールセミナー、そしていくつかの電子書籍版レポートをお付けしておりますので、ぜひ購入者専用ページでこれらの特典コンテンツをご活用下さい。同時にラインマスター式英語習得メソッドをベースとした各種オンライン講座等もご用意しておりますので、本書を読んで頂き少しでも興味・関心をもって頂けましたら積極的にご参加下さい。現在、毎日千名以上の受講生たちが日本だけでなく全世界中でラインマスター式英語習得メソッドを実践中です。

なお、書籍だけではどうしても伝わり難い所や字数の関係で詳しく説明し切れない項目等があるかと思います。本書を読んで頂き、少しでも疑問に思われたり、分かり辛く感じられたりする点があれば、いつでもメールでご質問下さい。

一般の書籍であれば、著者に直接質問する…ということはなかなか難しいかと思いますが、本書は直販スタイルでご提供しておりますので、いつでも著者である私・渡邉と直接メールでやり取りして頂くことが出来ます。私へのご質問・コメント等はお送りしているメールセミナーやメルマガ等への返信で届きますので、いつでも、どんな内容でもお気軽にお送り下さい。私自身、自分で言うのも何ですが、かなりフレンドリーな性格ですので（笑）、気になさらずどしどしメール下さい。お待ちしております。

さて、前置きが少し長くなってしまったようです。能書きはこれぐらいにして、早速「**ラインマスター式英語・英会話習得法**」の世界へあなたをご案内しましょう。どうぞリラックスして、最後までじっくりお読み下さい。

医薬通訳者・翻訳者

渡邉　英喜

ラインマスター式スピーキング 準備編

英語劇が原点となったラインマスター

さて、それでは早速ラインマスター式スピーキングの準備編の解説に入らせて頂きたいと思います。その前に、一体「**ラインマスター**」って何？という方もいらっしゃると思いますので、そこから話を始めましょうか。

まず、ラインマスター式の「**ライン**」について説明します。ラインというのは、line「線」という意味もありますが、ここでは映画や芝居などで役者が口にする「セリフ」のことを意味します。役者が使う台本に書いてあるセリフが線（ライン）のように見えるため、これを line と言うのです。ところで、ここでなぜ英語の習得・勉強なのに映画や芝居のセリフの話が出てくるのだろう？と疑問に思われたかも知れません。確かに、なぜ英語・英会話の教本なのにセリフの話になるんだろう？と思いますよね。実はここに**【英会話上達の大きなカギ】**が隠されています。

突然ですが、あなたは「**英語劇**」をご存知でしょうか？　英語劇というのは、要するに劇（芝居）を英語でやるというものです。そういえばうちの子がまだ幼稚園に通っていた頃、「三匹の子ブタ」の劇を英語でやっていました。まぁ、小さい子が一所懸命に英語でセリフを話している姿は微笑ましいものですね。

ただし私自身は中学生の頃まで、この英語劇について「何故こんな面倒臭いことをわざわざするのだろう？」と常に疑問を感じていたものです。ただでさえ面倒臭い英語を使って全てのセリフを覚え、しかもそれを誰一人として英語がわからない「日本人の観客」の前でやること自体に意味を見出せなかったのです（今、英語劇をやっている方、ゴメンナサイ）。

しかし、それは後になって「**英会話上達**」**に非常に効果的なアプローチ**であることに気付きました。私がアメリカの大学に留学していた頃の話です。このあたりの詳しい話については、本書の購入者特典でさし上げているウェブセミナー（購入者専用ページで視聴可）を見て頂ければと思いますが、当時英語がまったく話せなかった私がこの「英語劇」のアプローチを参考に自分が話す英語表現を「**セリフ**」のように捉え、準備して覚えておくことで驚くほど英語をスラスラ、ペラペラと話せるようになったのです。

多くの日本人英語学習者は英語を話すために「単語」を暗記し、「英文法」を勉強して、それこそ辛い受験勉強のように頭にギュウギュウに詰め込んだ「英語の知識」で英語を話そうとします。しかし、結果はどうか？と言えば、それはこれを読んでいらっしゃるあなた自身が一番ご存知かと思います。そうです、その受験英語的アプローチでは、いつまで経っても英語を話せるようにならないのです。

そうではなく、一度「単語」とか「英文法」といった知識の詰込み型学習から頭をリセットして、英会話とは一見関係が無さそうな「英語劇」的アプローチにシフトし、そのやり方を試してみて下さい。これは少し試すだけですぐに効果・変化が実感出来る、まさに「**即効性の高い英語習得メソッド**」と言えます。

「会話」の本質を知ると気が楽になる

「英語劇」をベースとした英会話上達のプロセスについてお話しする前に、あなたが抱いている（であろう）「会話」に対する固定観念をまず解く必要があります。その固定観念とは「**会話がまるで無限の語句・表現の組み合わせで出来ている**」といった幻想のことです。もっと簡単に言えば、私たちは日常会話でさまざまなことを口から出していますが、それらの語句や表現は、私たちが思っている程多くはなく、むしろ同じ**【定番のフレーズ】**の繰り返しで成り立っているという事実があります。

よく歳を取ると同じことばかり話すようになると言いますが（笑）これは何も年配の方に限った話ではなく、若い世代であっても、日常で口に出している言葉というのはかなり限定的であり、その数もバリエーションもさほど多くは無いのです。例えば自己紹介などの表現が典型的な例と言えるでしょう。私の名前は〇〇で、出身はどこどこで、仕事は何で、趣味は何で、家族構成はかくかくしかじか…といった内容を、初対面の人に話すかも知れませんが、そこで使われている語句・表現というのは全てが「**お決まりのテンプレート**」のようなものなのです。そして、それは相手によってコロコロ変わる…ということはありませんね（あったら、ちょっとコワイかも^^;）。

これは一般的な日常会話であっても同じで、朝起きて口から出す言葉、家を出る時の言葉、通勤・通学時の言葉、会社・学校での会話、仕事上の表現、友人との会話、食事中の表現等々、毎日の日常生活で私たちが口に出している言葉というのはほとんどが「**決まりきった表現**」であり、その繰り返しに過ぎないのです。

もちろん、厳密に言えばもっと複雑な会話や言葉もあります。日常会話の全てがテンプレートで成り立っているとは言いません。しかし、英語を話せるようになるプロセスにおいては習得の優先順位（順番）がとても重要で、まずはこれらの「決まりきった表現」、つまり定番の語句や表現を**【あなたの専用セリフ】**としてインプットすることから始めてみることを強くお勧めします。

そして、それらのセリフを、まさに先ほどお話しした「英語劇」における役者のセリフのように捉え、身につけよう！というのが、まさに「ラインマスター式英語・英会話習得法」の基本コンセプトであるというわけです。このアプローチをマスターすると、本当にビックリするほど簡単に英語を話すことが出来るようになります。今まで「単語」と「英文法」といった英語の知識で英会話を何とか攻略しようとしていた人が、このシンプルなアプローチを実践してみると、**「なんだ、英語を話すことって、こんなに単純なことで良かったのか！」**と思われるはずです。

実際、これまで過去 12 年に渡り 1 万人以上の方々がこの「ラインマスター式英語・英会話習得メソッド」を実践されてきました。そして非常に多くの方々が「このやり方で試してみたら、本当に英語を話せるようになった！聴き取れるようになった！」と言われています。ぜひ、あなたも今すぐ試してみて下さい。

ラインマスター式英語・英会話習得法のメリット

ここで「聴き取れるようになった！」と言われる方が多いことに着目して下さい。そもそも、英語劇的アプローチでは役者のようにセリフを使って「話す」という面が強化されるのはわかりやすいと思いますが、なぜ「聴き取り」、すなわちリスニング力まで向上するのでしょうか？

実は、英語劇をベースとした「ラインマスター式英語・英会話習得法」の効果・効能は「話し」「聴き取り」といったスキルだけに限られたものではなく、例えば「発音」や「ライティング（英作文・英訳）」「リーディング（読み）」、さらに「英文法」や「単語（ボキャブラリー）」の習得に至るまで、いわば全ての**【包括的な英語力】**の向上・改善に役立つアプローチであると言えるのです。

例えば英語の発音。英語劇で台本を渡されて、自分が話すべきライン（セリフ）だけを繰り返して覚えるとしましょう。するとあなたは、そのラインだけは何も考えることなく、意識することなくパッと口に出すことが出来るようになるはずです。この時、本人は自分が英語を話しているという自覚さえありません。なぜなら、頭の中で考えながら話しているものではないからです。ただ、洋楽でも唄っているかのような感覚で、「音」で丸ごと覚えてしまうということですね。この「音」で覚えるという点が非常に重要なのです。

日本人で日本語しか話せない人が、洋楽を唄うとまるでネイティブ・スピーカーのような英語を口から出すことが出来るケースがありますが、まさにこれが「ライン」で覚えた英語の発音矯正の例です。これは「発音記号」のような英語の知識で覚えたり、再現出来たりするものではなく、まさに英語劇の役者のように、セリフを丸ごと覚えて練習するから体得出来る「**本場の発音**」ということです。

さらに言えば、英語の発音というのは「単語」単位で練習してもあまり意味がありません。なぜなら、個々の単語の発音は隣り合う子音と母音によるリンキングやその他の条件によって大きく変化したり、弱まったり、強まったり、あるいは消えてしまったりするからです。つまり、ネイティブ・スピーカーのような英語の発音を身につけたいのであれば、まさに「ライン（セリフ）」ごと英語を覚えてしまうのが得策であるということですね。

そして、そのような本場の発音を体得出来ると、さらに面白い変化があなたに訪れます。それは「英語の発音」がわかるようになると英語を聴き取っている際に聴解出来る語句・表現の数が劇的に増加するという変化です。

聴き取ることが出来る英語の語句・表現が増えれば、当然ですがリスニング力が抜群に良くなります。まるで日本語を聞いているかのような感覚で、スムーズに聴き取れる感覚を体験することが出来るようになるのです。さらには、これらのスピーキング力とリスニング力向上と同じ原理をそのまま「書き言葉」に応用することで、リーディング（読み）やライティング（書き）といったスキルまで爆発的に向上させることが可能です。

ラインの定義（＝自分専用のセリフ）

　ではここから少し専門的な解説に入りたいと思います。とは言っても、そんな難しい話ではありませんのでどうか心配しないで下さい。少しずつ、わかりやすく説明していきます。

　まず「ライン」というのは、映画や劇（芝居）における役者のセリフのことであるというのは既に説明した通りです。例えば、以下のようなものがラインと言えます：

例：
Hi, how’s it going?
「やぁ、調子はどう？」

例：
It's so cold outside that the water pipes freeze up.
「外があまりにも寒いので水道管が凍っちゃったよ」

例：
Nothing is going to happen unless you make it happen.
「あなたが起こそうとしなければ、何も起こらないよ」

ここで、例えば **How's it going?** というのは **How is it going?**のことで、アメリカの口語では定番の挨拶です。言ってみればこういうのは、一つ一つの単語から文法に則って英作文して…というアプローチでは決して口に出来ない慣用表現ですね。最初から、ネイティブ・スピーカーが普段の日常生活で口にしているような定番表現ですので、こういったものはフレーズごと、つまりラインごとまとめて覚えてしまった方が効率的ですし、発音の観点からも練習しやすいのです。

また、次の **It's so cold outside that the water pipes freeze up.**という英文がありました。日本語の意味としては「外があまりにも寒いので水道管が凍っちゃったよ」といった意味ですね。このようなフレーズ自体が丸々、英会話のフレーズ集に掲載されていることは無いでしょう。なぜなら、これは非常に個人的な、限定されたシチュエーションでの発言だからです。しかし、例えば寒い地方に住んでいる人からすれば、冬の寒い日に水道管が凍るということが日常茶飯事かも知れません。その場合、**自分のシチュエーションに合わせて準備するセリフ**なので、これを「ライン」と呼ぶわけです。

「ライン」の定義はあくまでも「自分専用のセリフ」であるということが挙げられます。つまり、単なる英会話の汎用フレーズではなく、個人に特化した、**極めてプライベートな英会話向けフレーズ（セリフ）**のことを「ライン」と呼ぶわけです。そこで、自分が言いたいことや相手に伝えたいこと、表現したいことを、すべて書き出して英語のラインにしてどんどん音読し、丸ごと覚えて、実際の英会話等で積極的に使ってみる…。これがラインマスター式の基本というわけです。

Nothing is going to happen unless you make it happen.も、ネイティブがよく口にする定番ラインですが、意味は「あなたが起こそうとしなければ、何も起こらないよ」ということで、つまり「まずは行動してみよう」とか「なせば成る」といった意味のことわざ系フレーズの一つです。このような成句・慣用句も、覚えてしまえばそのまま口に出すことが出来るわけですからセリフのようなもの、つまり「ライン」というわけです。

最後にもう一度まとめますと…ライン（line）とは役者の「セリフ」のことで、言ってみれば英語の「フレーズ」そのもののことですが、これをラインマスター式では敢えて「**自分専用のセリフ**」と呼ぶように、人それぞれが持つ極めてプライベートかつオリジナルの慣用的フレーズのことをラインと言います。英会話のフレーズ集に載っている英文例は汎用的なものが多いですが、「ライン(自分専用のセリフ)」は極めて個人的・個性的で、まさにその人だけの英語の表現・フレーズであるという点が重要な違いとなります。

← **まさにこんなのが LINE !**

パーツの定義（＝英語の慣用的な最小単位）

では、次に「**パーツ**」について説明しましょう。上述の **How's it going?** のような短いライン（セリフ）は、もうこれ以上分解出来ないわけですが、比較的長めのライン、例えば **Nothing is going to happen unless you make it happen.** といったラインには、いくつかの定番の熟語・慣用句から成り立っています：

Nothing is going to happen unless you make it happen.

であれば、

Nothing is going to happen 「何も起こらない」

や

make it happen 「やってみる / 実現させる」

…といった定番の熟語・慣用句が入っていることがわかりますね。このように、英語のラインを構成する熟語や慣用句のことを「**パーツ**」と呼びます。

例：

Nothing is going to happen unless you **make it happen.**

パーツ　　パーツ

これらのパーツは、それだけでも英語の表現として意味をなす最小単位ですので、組み合わせやアレンジ次第では、たくさんのラインのバリエーションを作り出せます。

例：
Nothing is going to happen **if you give up now**.
「もし今諦めたら、何も起こらない」

例：
Nothing is going to happen **if you don't have enough money**.
「お金が十分になかったら、何も起こらない」

例：
Nothing is going to happen **if you will never try**.
「挑戦しなければ、何も起こらない」

例：
If you really wanna try, **make it happen!**
「もし本当に挑戦したいのなら、やってみろ！」

例：
If you don't wanna die, **make it happen!**
「死にたくないなら、やってみろ！」

フォームの定義（＝英語の定番の骨組み）

さらに、ラインを構成する要素として「**フォーム**」というものがあります。フォームというのは「型」のことですね。要するに、ラインを形作る骨組みのようなものです。この「フォーム」は、言ってみれば英語の「入れ物・容器」のようなものですので、そこに異なる語句や表現を入れることで、さまざまなラインをアレンジして作り出すことが出来るようになります。例えば、これは簡単な例ですが先ほどの **If you** 〜「もし〜（する）なら」という型自体もラインを形作る基本的な「フォーム」の一種と捉えることが出来ます。

先の例文で言えば…

It's so cold outside that the water pipes freeze up.
「外があまりにも寒いので水道管が凍っちゃったよ」で

so 〜 that …というのが「あまりにも〜なので…だ」という意味のフォームと言えます。これを元にすれば、

例：

It’s so expensive that I can’t afford it.
「あまりにも高いので買えないよ」

例：

Tokyo Sky Tree is so tall that I can’t see the very top.
「スカイツリーはあまりにも高いので、てっぺんが見えない」

…といったラインをどんどん作ることが出来ます。この辺りは簡単な表現ばかりですが、他にも **Nothing is going to happen unless you make it happen.**であれば **unless** 〜（〜しない限り）というフォームが入っていることがわかりますね。この **Unless 〜, ….**のフォームを使ってバリエーションを考えてみると…

例：

Unless **you quit your bad behavior, I won't forgive you.**
「あなたの悪癖をやめない限り、私は許さないよ」

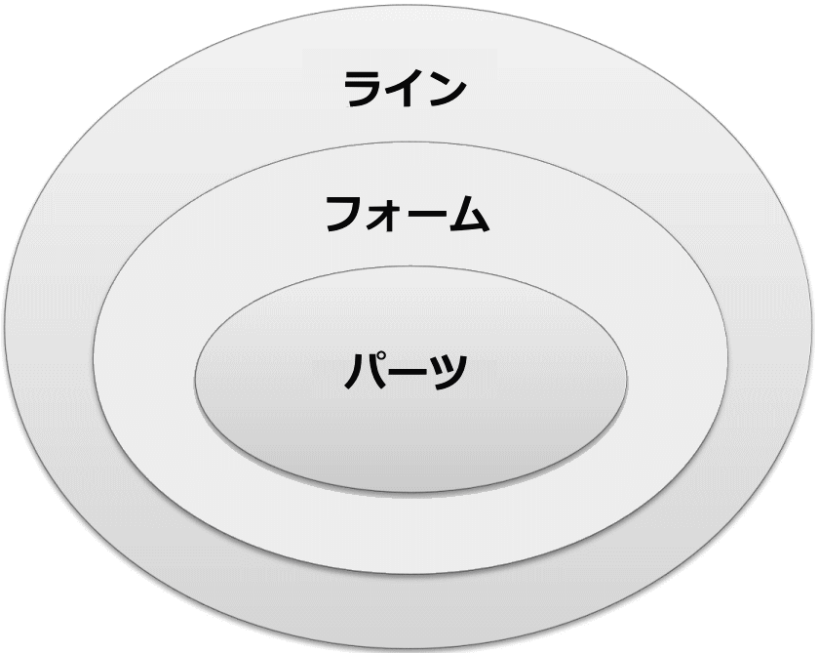
例：

Unless **he directly tells me so, I won't trust him.**
「彼が直接私にそう言わない限り、私は彼を信じない」

…等々、さまざまな表現を作り出すことが出来るのです。

「ライン」「パーツ」「フォーム」のまとめ

ラインマスター式におけるラインとは英語のフレーズ（特に**【自分専用のセリフ】**）のことであり、それは「パーツ」という熟語や慣用句と、「フォーム」という英語の型の要素から構成されています。「パーツ」はそれだけでラインとして使えることもあり、また「フォーム」をベースにすれば、さまざまなラインを作りだすことが出来るようになります。



なぜ英語を話すことが出来ないのか

それでは、ラインマスター式のスピーキングを詳しく解説する前に、なぜ私たち日本人が英語をなかなか話せるようにならないのか、その理由についてお話ししたいと思います。

初心者の方であれば、今英語を話せない理由は痛い程知っているよ！と思われるかも知れませんが、案外あなたの知らない理由があるかも知れません。以下、順に考えてみましょう：

日本人が英語を話すことが出来ない理由

＊ ここで「話すことが出来ない」というのは文字通りスピーキング（話すこと）が出来ないという意味です。

1．外国人を前にするとアガッてしまう

これは、実は日本人の場合は結構深刻なんです。どういうわけか、日本人は欧米人の前だとアガッてしまう傾向があります。同じ外国人であってもアジア系は大丈夫なのですが、金髪で目が青かったりするともうダメですね。しかし、もったいないのは、高い英語力があってもアガッてしまう人がいるということです。本当は十分英語を話すことが出来る旋回能力があるのに「**あがり症**」というだけで話せなくなってしまうのは非常にもったいないです。実際そういう日本人がたくさんいます。

これに関してはメンタル的な部分の問題がありますので、なかなか難しいのですが、一番有効なのはリラックスして会話に臨むことと、やはり綿密な準備を行っておくということ。準備が中途半端であるのもいけません。自分が話すであろうこと、話したいことを十分明確にし、同時に相手がどんな話をしそうかについてもよく想定し、出来る準備はすべて済ませておくことで、安心して会話に臨むことが出来ます。安心感は自信とも言えますが、こうすることでリラックスして英会話に臨めるわけです。

私が通訳の駆け出しの頃の話ですが、やはり自信がないからとても緊張するわけです。もう手足がブルブル震えているのが自分でもよくわかる…。メモを取っている手が震えているのを外国人が見ていて、それを見られていると思うとさらに震えてくる…。こうなるともう悪循環ですね。見かねた先輩通訳者と外国人が気を遣ってジョークを言って、ガチガチに緊張している私を笑わせようとするのですが…今思い出しても恥ずかしい場面でした。しかし、その時、なぜ私がそこまでアガッてしまったのかと言えば、その原因はたった一つしかありません。

それはつまり**【私の準備が足りなかったから】**です。それ以上でも、それ以下でもありません。十分に準備を行っておけば「あがること」も回避出来たはずです。

この「恐怖のスパイラル」に陥るともうダメ…

準備が足りないから、自信がない。

↓↓↓

自信がないから、リラックス出来ない。

↓↓↓

リラックス出来ないから、アガッて震える。

↓↓↓

さらに緊張して、もうワケがわからなくなる…

↓↓↓

という「恐怖のスパイラル」に陥るわけです。

この状況への対処法は先も書いた通り、**十分な準備をして英会話に臨む**ということに尽きます。ここで言う「十分な準備」というのは、自分がリラックスできるに十分な準備ということです。もちろん、完璧な準備というのは難しいかも知れません。しかし、自分が納得いく範囲で「ここまで頑張って準備したんだから、あとはうまく話せなくても後悔はないな！」と思えるところまで準備しておくと、かなりリラックスして話すことが出来ます。これは言ってみれば、「開き直り」のような心持ちですね。「ここまで頑張って準備したんだから、あとは野となれ山となれ！もう私は知らんよ」という感じ（笑）。でもそれで良いのです。

それから「**欧米人に対する極端な憧れ**」がある人は要注意です。特に幼少時にアメリカ人の兵隊さんに飴やチョコレートをもらった経験があるような方（年配の方には多いかも？）または、米軍基地の近くで育ったような方で、アメリカ人に対して特別な憧憬を抱いている方ですね。

最近の若い日本人は欧米人相手でもあまりアガらないそうです。なぜなら、必要以上に「憧れの目」で見ていないから、です。そういう意味ではいわゆる昭和世代で、外国人と言えば誰でもアメリカ人！と思い込んでいたような世代の人たちは要注意です（私も含めての話ですが）。

人間は憧れている相手に対して異常に緊張する生き物です。誰でも自分が好きな人の前だと緊張しますよね。それと同じことです。好きな相手に嫌われたくないのです。欧米人に対して憧憬を抱いている人ほど緊張するのは、そのためです。しかし、その気持ちが過剰になると、英会話などにおいては裏目に出てしまいます。必要以上に緊張すると、やはりそれだけで話が出来なくなってしまうわけです。特に英語力があるのに、緊張して話せなくなるというのはもったいないですよね。

それから、これはとても効果の高い裏ワザですが、ネイティブ・スピーカーと会話をしていて、どうにもこうにもアガッてしまって会話が出来なくなった時や、言いたいことが言えなくてパニックになってしまったような時は、とりあえず**日本語で何か一言口に出すと良い**です。

「えーっと、何て言うんだっけ」とか「あー、ど忘れした〜」とか、そんな感じの言葉を何でも良いので日本語で一言発してみる。すると、それをきっかけにリラックス出来るようになります。また、外国人からすると「え、なんで急に日本語？なぜ英語で話してくれないの？」という気持ちになって、少し戸惑う顔になるんです。

まぁ、言ってみれば相手に対し「**私はノンネイティブ（英語を母国語としない人）ですよ。だから、英語が話せなくても責めないでね！**」ということを仄めかすわけですね。一つのパフォーマンスのようなものです。すると、相手の外国人に「そうだった、この人は英語が母国語ではなかったんだ」と再確認してもらうことが出来ます。もちろん、相手はあなたが日本人で英語が苦手なことは百も承知ですが、そうやって、一つ線を引くと変な緊張感がなくなるのです。相手に対して「だから、私は完璧な英語は話せませんよ」と仄めかすことが出来るわけです。

こんな些細なきっかけで、いつもの自分のペースを取り戻すことが出来るようになります。けっこう、バイリンガルの日本人でペラペラ話している人に限って、英語の途中にまるでアクセントのように「えーと、何て言うんだっけ…」なんて日本語で呟く人が多いです。そこでストレスを発散している、とも言えますね。

日本人が英語を話すことが出来ない理由

２．頭の中で英作文をして話そうとしている

日本人が英語を上手く話せない理由の一つとして、英会話の現場でリアルタイムに頭の中で「英作文」を行い、それを口に出そうとするアプローチを取る人が多いということが挙げられます。ただし、英会話の時に頭の中で英作文をしているのでは「時間がかかり過ぎる」のです。英会話はいわば「**言葉のキャッチボール**」です。相手が何かを言ったら、それに対して間髪入れずにこちらからポンと返答を投げ返す。そして、またそれに対する返答があって、ポンポンポンと会話が進むわけです。

まさに「会話が弾む」とはこのことで、本来はそのようなペースで進めるものなのですが、英作文なんかをしながら「えーと、えーと…」とやっていたら、弾む会話も弾みません。まぁ、相手が英会話教室のインストラクターであれば、こっちは高い料金を払っているお客さんですから、ある程度スローになってもニコニコして話を聞いてくれるかも知れません（とはいえ裏ではどんな顔をしているかわかりませんが…）。

しかし、それが一般の英会話となれば…。ましてや会社や仕事関係の英会話の場であったら…。あまり良い影響を与えるとは思えませんね。相手が愛想を尽かしてしまう恐れさえあります。これについては、ラインマスター式のメソッドで見事に解決することが出来るわけですが、結局「頭の中の英作文」をやめることが一番重要なのです。だって、考えてみて下さい。私たち日本人が日本語を話す時、頭の中で日本文をいちいち作文して、それを口に出していますか？そんな面倒臭いことをしている日本人は一人もいませんよね（笑）

ここで一つ重要なヒントが浮かび上がって来ました。そうです、つまり私たち日本人が普段どうやって日本語を話しているのか、その仕組みさえ理解出来れば、当然英語だって同じように話せるようになるはずです。では、その仕組みは一体どうなっているのでしょうか？

それはかなりシンプルかつ単純な仕組みで、**「既に頭の中に入っている（＝知っている・覚えている）「自分らしい決まり文句」を無意識に発しているだけ」**…ということです。この「自分らしい決まり文句」というのが、要するに「自分専用のセリフ（ライン）」そのものであり、これが、私たちが普段日本語で自然に会話をすることが出来る仕組み、つまり会話のメカニズムそのものであるということです。

もちろん、言葉を無意識に発するには、それなりの「慣れ」が必要です。はじめのうちは少なからず「意識」して話そうとしなければ英語は口から出てこないでしょう。しかし、それは「作文」とは違います。ラインマスター式では、既に頭の中に入れたラインを口から出す訓練をします。つまり、それは英作文ではなく、既に一つの「フレーズ」として完成したラインを丸ごと口に出し、適宜組み合わせを変えたり、多少のアレンジを加えたりして会話を進めるわけです。実際、これが英語を話すためのもっとも自然な形のアプローチと言えます。

日本人が英語を話すことが出来ない理由

3．単語や英文法に厳密になり過ぎる

結局これも「英作文」をしながら英会話に臨むという悪しきアプローチに起因するものですね。有名な本で「瞬間的」に英作文をすることを推奨しているのがありますが、私はあまりお勧めしません。英会話の場は「話す」場です。そこは「単語や文法を考えながら英作文をする」場ではないのです。瞬間で行わなければならないのは「英作文」ではなく、「会話」です。そのためには、その場で話すことを考えながら英作文するのではなく、あらかじめ自分が言いたいこと、話したいこと、表現したいことは一通り先に「準備」しておくことがとても大切です。ラインマスター式で、先にラインをたくさん準備しておけば、少なくとも英会話において単語や英文法の心配をする必要はありません。なぜなら、もう既に「**出来上がっている（完成している）ライン**」を口に出せば良いだけだから、です。

そういう意味では、ラインの「準備の段階」では多少ボキャブラリーや英文法に神経質になっても構わないです。決して、単語や英文法を軽視しろと言っているわけではなく、あくまでも本番で、つまり英語を話したり聴き取ったりする場面で単語や文法にこだわることはやめた方が良い…ということです。また、**単語のチョイス（選択）**にしても、なるべく難しい単語を使わないようにすることが英語を通じやすくするための秘訣と言えます。少しでもネイティブ・スピーカーどうしの会話を聞いたことがある人ならわかると思いますが、彼らはかなりシンプルで簡単な単語ばかり使って話しています。ネイティブ・スピーカーがそんなに簡単でシンプルな単語ばかりを使って会話をしているというのに、どういうわけかノンネイティブ・スピーカーの日本人の方がやたらと難解な単語ばかり使うのは滑稽ですよね。特に英検１級とか、TOEIC のスコアが高い人に限ってそういう傾向があります。私はこんな難しい単語も知っているんだぞ！ということを周囲に知らしめたい虚栄心もわからなくはありませんが、それで英語が通じにくくなってしまっているのであれば本末転倒です。英会話での単語は極力簡単に、シンプルに、ノンネイティブの日本人であれば、なおさら簡単なボキャブラリーで英会話に臨むべきです。そして、その方がよほど通じやすいですし、発音も簡単なので理解されやすいのです。

【補足】

ラインマスター式で英会話を行う際は使う単語をシンプルなものにするだけでなく、ライン（セリフ・フレーズ）の長さをなるべく短くするよう心掛けて下さい。上級者で、既に十分な英語力がある人は別ですが、初心者のうちから「あれもこれも」と言う感じで山盛りのラインになってしまう人がいます。最初からそんなにたくさんのことは話せませんし、また覚えるのも大変です。単語を簡単・シンプルなものにすると同時に、ラインの長さも短く区切り、覚えやすいものから始めると良いでしょう。

そういう意味では「パーツ」のみから覚えても良いと思います。そして、十分なパーツを頭の中に入れたら、それぞれを組み合わせて長めのラインにアレンジしていくと良いでしょう。

日本人が英語を話すことが出来ない理由

４．「話し言葉」と「書き言葉」の違いを全く理解していない

この違いは非常に重要です。非常に、非常に重要な故、私のメルマガやブログはもちろん、これまでに執筆した教本シリーズでも、詳しく解説しています。しかし、それでも理解してもらえないのです。なぜ理解してもらえないのかと言うと、「そんなこと分かっているよ」という人が多いから、ですね

しかし、「そんなこと分かっているよ」と言いながら、多くの人が英会話の時に、まさに書き言葉丸出しの英語を話しているのです。それはもう、リーディングの教科書に載っているような「文語」まるだしの表現です。これは日本語で考えて頂ければ一番わかりやすいかと思いますが、会話の日本語というのは非常にくだけていますね。省略されたり、倒置されたり、文法がメチャクチャであったり、かなり「いい加減なもの」であるわけです。

■ 口語表現の例（日本語の場合）：

「あのさー、昨日借りてきたアレ、もう返した？」

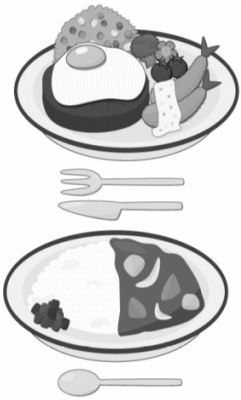
「いつまで寝てんの！早く起きなきゃ、学校に遅刻するよ！」

「そういや、今日来るって言ってなかった？」

このような典型的な話し言葉（口語）と、いわゆる書き言葉（文語）の違いがわかりますか？大きな違いとしては「主語」が省略される傾向があることです。なぜなら、会話の場合はお互いに共有している情報が多いため、いちいち主語を言わなくても何のことを言っているのが大体理解出来るからですね。また、いちいち主語をつけていたら冗長過ぎて会話がしづらいというのも理由です。その他、主語だけでなく、述語がなかったり、ひどい場合には両方省略されたりします。

例えばＡさんとＢさんがレストランに入ってメニューを見ながら以下のような会話を交わしていたとします：

■　口語表現の例：



A「何食べる？」

B「えーと、カレーかな」

A「俺はハンバーグ」

ちょっと変な会話例ですが、これらを文法に沿った日本語にすると…

■ 文語表現の例：

A「あなたは何を食べるつもりですか」

B「そうですね、私はカレーを食べようかと思います」

A「俺はハンバーグを食べるつもりです」

…というわけで、非常に冗長な会話になってしまいます。結局ここなんですよね。英語が下手な日本人が英会話でやっていることは、まさにこの下の会話例を素で外国人相手にやってしまっているということです。

確かに、それで通じないことはないでしょう。別に教科書通りの英語を話して何が悪いの？と思われるかも知れません。しかし、それを続けているといつまで経ってもスムーズな会話を実現できないのです。ただ通じるからと言って、それを推し進めようとしても、空気の読めない人で終わってしまいます。

これは英会話のセンスにも通じることですが、英語が上手な日本人というのは、空気を読むのがうまいです。つまり、ネイティブの会話が省略ばかりの英語が多いと悟ったら、すぐに自分の英語も同じように真似るんですね。郷に入れば郷に従うではありませんが、英語を話すのであれば、ネイティブ・スピーカーのやり方に素直に従うのです。

しかし、一部の日本人はなかなか頑固な人が多く、英会話での英語は口語（英会話専用の言葉）だから口語を使わなければスムーズに会話を続けられないですよとアドバイスしても、頑なに「書き言葉」の英語を話そうとします。それが、まさに上の例（教科書的な、冗長な英語）というわけです。

したがって重要なことは、英語には「書き言葉」と「話し言葉」の二種類があって、前者はリーディング（読み）やライティング（書き）専用、後者はスピーキング（話し）やリスニング（聴き）専用であるという大原則を理解することです。

重要ですから何回も言いますが、英会話においては**英会話専用の英語（口語）**を覚えて使うようにしなければいけません。この教本では、これから「ライン」を想定し、作成し、それを覚えて英会話の実践に挑戦して頂くわけですが、ラインを作成し、実際に使う際にはこの大原則**【英会話においては英会話専用の英語（口語）を使う】**は絶対に守るようにして下さい。これを知っているか知っていないかで、英語が話せるようになるかならないかが決まると言っても過言ではありません。それぐらい、重要な話なのです。

５．神経質過ぎる

最後の理由がこれです。神経質過ぎるのです。本当に日本人はきめ細かな性格というか（それはそれで良いと思うのですが）、細かいところに気を配り過ぎるので、どうしても英語を話すことに躊躇してしまう人が多いんですね。「文法が間違っているんじゃないか？」「こんな発音をしたら笑われるんじゃないか？」「こんなことを言ったら恥ずかしいのでないか？」等々、常に気にしているんです。

一方、ネイティブ・スピーカーを含む他の諸外国の人々は皆、基本的に図々しいです（笑）。皆、性格が図太いんです。良い言い方をすれば大らかで、楽天家という感じでしょうか。細かいことにこだわらないし、気にもしない。例えば初対面の人に声がかけられない人が多いのも日本人の特徴ですね。

これはもう英語力の問題ではなく、そういう国民性とか、性格の問題です。英語がわからないのではなく、いつも神経質になって、周りが気になって、ビクビク・オドオドしている。これは英語力云々の前に、もっと図太くなって、ガンガン人前に出ていける厚かましさ、図々しさ、器（うつわ）の大きさが必要なのです。この辺りは外国人を見習った方が良いかも知れませんね。

初対面で会った人に声をかけられるか？

世の中には「適性」というのがありますが、こと英会話においても、やはり「適性」というのは存在します。まぁ、適性がなければまったく英語を話すことが出来ないというものではありませんのであまり心配しないで下さい。もちろん適性があった方が、英語を話せるようにはなります。その英語・英会話の「適性」のうち、最も重要なのが「**初対面で人とすぐに話を出来るかどうか**」というもの。

つまり、街で出会った見ず知らずの人に声をかけられるかどうか、ということです。以前、私の教本で「大阪のオバちゃんは、電車で隣に座るとすぐに話しかけてくる」と書いたら、「そんなことはないですよ」と少し怒ってメールを下さった大阪の女性がらっしゃいましたが…（笑）

＊ 以下その一節を抜粋引用します：

「例えば大阪のおばちゃん。私も前に大阪に行ったときビックリしたことがありますが、すごいパワフルなんですよ。元気があって、どちらかというと何というか、ラテン系のノリなんですね…。電車に乗って隣に座ったら「もうお前アミーゴ（友達）！」っていう感じで話しかけてきて、ずっと世間話していたんですけど(。)、そういうフレンドリーさというか、積極性がある人の方が英会話のマスターは早いです。これは本当。」

拙著「とんでもない英語英会話マニュアル教本」より抜粋

このノリがまさに英会話の「適性」ですね。要するに、初対面だろうが、男だろうが、女だろうが、もう関係なく **Hi, how're you doing?**と話しかけられる性格が英会話向きの適性というわけです。で、もったいないのが、英語力は本当にあるのに、この適性が欠けているためにどうしても英会話で話が出来ない日本人というのが結構いるんですよ。

確かに、日本人は英語がダメ、ダメと言いますが、中学、高校、大学受験と、もう長い期間、英語を勉強しているんですよね。今は小学校でも習いますから、それはものすごい期間勉強し続けているわけです。そう考えると、この適性さえクリア出来れば、明日にでもペラペラ話し始める人だっているはずです。だから、初対面の人に声がかけられるか、または知らない人でも世間話が出来るか…こういう面も決して軽視してはいけないのです。

ラインマスター式スピーキングの特長

では、日本人が英語をペラペラ～ッと口に出すためにはどうすれば良いのか、いよいよラインマスター式の核心に迫って解説したいと思います。

まず、既にラインマスター式の概要は説明しましたが、英語のスピーキングにおいては、英語を話す前の段階で、自分が話すべき内容をすべて想定し、自分専用のラインという形でしっかりと覚え、それをいつでも口に出せる訓練をしておくことが重要です。

特に重要なのは、ラインマスター式では、「ただ単に何でも良いから英語のフレーズを覚えておきましょう」と言っているのではないことです。何でもかんでも覚えておけば英語は話せるようになるというのは些か暴論ですし、それは不可能に近い話です。ラインマスター式で、英語のことを殊更「ライン」と言っているのはこのためで、あくまでも覚えておくのは自分に特化したセリフ、すなわち「**個人の口癖・決まり文句**」に近いものです。

次のページに単なる英語の「フレーズ」とラインマスターにおける「ライン」のコンセプトの違いを表しました。ラインマスター式を実践する上で、この違いは重要ですのでよく理解しておいて下さい。

英語のフレーズ	英語のライン
・より汎用的（誰にもあてはまる）	・より個人的（自分専用）
・旅行英会話集や日常会話集等の書籍に載っている	・自分で会話を想定で作ることが大事（＝自分にしかわからない）
・模範的・教科書的	・より自由でラフな表現
・画一的	・個性的（オリジナリティ）

上記比較表を見て頂ければわかると思いますが、単に「英語のフレーズ」と言った場合はより汎用的で、誰もが使えるもののことを指します。例えば書店へ行けば「海外旅行用の会話集」や「日常会話フレーズ集」などというものはいくらでも売っています。

確かに、こんなのを丸ごと覚えて英会話に臨めば、それなりに英語を話すことは出来ます。しかし、それは非常に「表面的な」英会話に過ぎません。言ってみれば、教科書上の会話例の再現のようなものですね。それでも初心者のうちは十分かも知れません。そんなフレーズを口に出し、それが外国人に通じたら、それはそれで嬉しいものです。しかし、いつまでもそのレベルで満足しているわけにもいきません。

言葉というのは非常に個人的なものです。個人によって、個性が強く出るものなのです。その人の価値観、趣味、考え方、表現、口癖、性格、人間性を含めた、その人専用のフレーズが「**ライン**」というわけです。

意志疎通が出来るのであれば何でもいいというのであれば、市販の英会話フレーズ集で事足りるでしょう。海外旅行用の会話集で十分でしょう。もっと言えば、最近は iPhone のアプリで旅行先で英語を話してくれるものがありますから、そんなもので十分意思疎通をはかれます。

しかし、ラインマスターにおける英会話、外国人とのコミュニケーションというものは、もっと「深いところ」でのコミュニケーションを目指します。つまり、個人レベルでの、本当の意味での心と心のつながりを大切に考えます（…そんなことを言うとカッコつけ過ぎですが）。表面的ではなく、ハートとハートのコミュニケーションというわけです。

ラインマスター式スピーキング 実践編

ラインマスター式スピーキングの実践

それでは、「ラインマスター」のコンセプトを理解して頂いたところで、いよいよラインマスター式スピーキングの実践の説明に入りたいと思います。まず、以下に実践内容のおおまかな流れを記載しますので確認して下さい：

ラインマスター式スピーキング実践内容の流れ

①　自分の英会話の分析とライン想定

↓

②　ラインの作成（定番ラインの型にあてはめる）

↓

③　ラインの記憶と発音練習　【ここが一番重要】

↓

④　ラインを用いた英会話実践　【ここも更に重要】

次のページより、それぞれを詳しく解説します。

①　自分の英会話の分析とライン想定

何度も言いますが、一般に言う英語の「フレーズ」とラインマスター式における「ライン」の違いというのは、前者が「汎用的なもの」「一般的なもの」であるのに対し、後者は非常に「**個人的なもの**」「**パーソナルなもの**」であるということです。つまり、ラインがラインであるためには、まさに自分に特徴的な、自分しか言わないような「決まり文句や口癖」を知ることから始める必要があります。この段階では日本語で考えて頂いて構いません。

しかし、これが意外と難しいものです。なぜなら、私たちは無意識で日本語を使って会話をしているため、あらためて話している内容を考えてみたりしないからです。これは別の言い方をすれば、私たちは思ったほど「会話」自体をしていないから、とも言えます。実は、自分の会話を知るために私がお勧めしているのが、**一日の会話をすべて録音してしまうという方法**なのですが、これを実践された方から、録音はしてみたけれど、自分はあまり会話をしないことがわかりました…というメールを頂くことがよくあります。

もちろん、これは人にもよるでしょうが、お喋り好きな人は別として、一般的な日本人は、それほど会話をしないようです。まぁ、これは逆に捉えれば、それだけ準備するラインが少なくて済むということですが、英語ではなるべく「おしゃべり（話し好き）」になるよう心掛けた方が良いです。次のページに、普段の自分の会話を分析するためのチャートを用意しましたので、これに従って自分の会話内容をノートなどにまとめてみて下さい。これは出来るだけ詳しく書いた方が良いです。場合によっては 3 日でも 5 日でも 1 週間でもかけて、とにかく詳しく分析してみて下さい：

■ あなたの会話内容の分析（日本語）

初対面の外国人と出会ったらどのようなことを英語で話しますか？

天気の話題から始めるのであれば、一通りの気象状況を説明できるラインを準備しておくべきですね。その他、初対面の人にあった時に「自分だったらいつもこういうことを話す」というものを考えてみて下さい。それはあなたにしかわからない、あなたに特徴的な定番のネタであったり、話のキッカケであったり、決まり文句であったりします。

仕事では、どのようなことを話すことが多いでしょうか？

仕事の英会話はある意味ラクです。なぜなら話題が限定されているからです。専門用語なども、仕事上で使うものはすべて書き出してみて下さい。仕事上であなたが口にする日本語をノートに書き出し、徹底的に英語にしておくと良いです。ここで「徹底的に」出来るか出来ないかで、あなたの仕事上の英会話力は大きく変わると言っても過言ではありません。今、英語をペラペラと話せるようになった人たちは、皆このような部分を徹底した結果、話せるようになっているということです。逆に言えば、英語をなかなか話せるようにならない人たちがグーグーいびきをかいて寝ている間に、話せる人たちはしっかりと「徹底した」努力をしている…ということでもありますね。

自分のことを紹介するとき、どんなことを話すでしょうか？

ここは非常に大事です。なぜなら、自己紹介というのは自分のラインの中で最も「パーソナル」「個人的」なものだからです。まさに、ラインというのは自己紹介のためにあるようなものと考えて下さい。これは市販のどの会話集にも載っていません。世界でたった一つの、オリジナルのライン…それが自己紹介なのです。したがって、これはしっかりと日本語で書き出した上で、気持ちを込めて英語に訳してみて下さい。ただ、自己紹介なら何でも良いというものではありません。あなたという人間、生き方、考え方の中で、本当に相手に伝えたいこと、表現したいこと、話したいことを吟味すると良いです。ここは本当に時間を割いて頂き、あなたの「人となり」をしっかりと表現出来るよう、色々と考えてみて下さい。

家族のことを紹介するとき、どんなことを話すでしょうか？

家族のことも非常に個人的なものですね。家族それぞれに関する表現はすべて準備しておきましょう。父親・母親の職業、役職、性格、体の特徴、趣味や習慣、あるいは兄弟姉妹のこと、さらには飼っているペットのことも含めて、身の回りの大切な人々（＋ペット）についてしっかりと英語で紹介できるよう準備をしておくと良いです。さらに親戚や従妹、その他仲の良い友人のことも、もちろん準備しておくと良いです。これだけでもかなりのラインが作成できそうですね。

日本の伝統や文化について聞かれたとき、どう説明しますか？

外国人にとって、日本という国は非常に不思議で魅力的な国に感じられるようです。特にその伝統や文化については、英会話で一番盛り上がるトピックと言えます。伝統や文化、習慣については季節に合わせて考えてみると準備しやすいです。お正月の習慣（初詣、お年玉、お節料理、書初め）から始め、2 月は節分、3 月はひな祭り、4 月は花見、5 月はこいのぼりや兜人形等々、毎月の伝統行事やそれに関連する習慣、文化の違い（例えば温泉の混浴でさえ、外国人は大変驚愕するネタとなります）、お祭り（お神輿や神社のお参りの仕方）、または日本におけるクリスマスの意味等々、これだけでも一体どれくらいのラインが作成できるでしょうか。

英語を話せる人というのは結局、こういうラインをとにかくたくさん準備して知っているのです。心して準備しましょう。なお、日本の伝統や文化、習慣を英語にするのは少し難しいので、市販の書籍でこのようなものを英語で紹介する時のガイドブックがありますので、ラインを書く時に参考にすると良いでしょう。凝りすぎると「シンプル」の原則に反してしまいますので、なるべく簡単に、短く、簡潔なラインにすることを忘れないで下さい。通訳ガイド向けの参考書や教科書なども非常に参考になります（通訳ガイドとは訪日した外国人を名所に連れて行く旅行ガイド兼通訳者のことです）。上述の通り、この手の伝統的なものや文化・習慣に関するラインを英訳するにはちょっとしたコツが必要ですので、初心者のうちは参考書等の英文を丸ごと真似ることから始めても良いでしょう。

自分の趣味についてどのように説明するでしょうか？

これも、とても「個人的」なものですね。趣味の話題は英会話では基本の基本となるトピックです。わかりやすい趣味であれば良いですが、少し特殊な趣味であれば、専門用語をさらに説明するための英語のラインを準備しておく必要がありますね。しかし、趣味を紹介するためのラインというのは、おそらく作成していて一番楽しく、ワクワクするものかも知れません。実際、趣味を追及する過程で英語と触れ合い、その結果英語を話せるようになった、聴き取れるようになった…という人はたくさんいます（むしろそちらのアプローチの方が多いぐらいです）。

これもこだわり過ぎると、どうしても難しい表現（ライン）になりがちです。自分の趣味についてですから、ちょっとマニアックなことや専門的なことも英語にしたくなる気持ちはわかりますが、ここでも「シンプル」「簡単」の原則からすれば、なるべく「平易に」「短く」「わかりやすく」英語にすることを心して下さい。一般に趣味に関する内容を英訳すると、専門的なものであればあるほど不自然なラインになりがちです。そのような場合は、それぞれの趣味に関する海外のサイトや掲示板等を日頃から見ていると、自然な英語の表現を知ることが出来ますので積極的に情報収集しましょう。

海外のサイト、ブログ、SNS、あるいはお店やオークション、YouTube 動画等々、さまざまなところにヒントが転がっているはずです。

どんな世間話をするでしょうか？

世間話というのは、時事的なもので当たり障りのない、例えば芸能人のゴシップ話とか、いわゆる「くだらない話」が多いわけですが、英会話においては世間話というのは重要な潤滑油の役割を果たします。特に初対面であるから自己紹介とか、家族のこととか、趣味のこととか、そればかり話していると少し「お堅い」感じがしてしまいます。言ってみれば、模範的過ぎるのです。教科書的な、杓子定規な会話になりがちというわけですね。

そんな時には、最近の芸能人の話題とか、誰もが知っていて興味のある、それでいて重くない、ちょっとしたスモールトークのトピック、くだらないゴシップ話の類を一つ二つ英語で準備しておくことも有効です。ああ、この人はこんな軽い話も出来るんだなと思ってもらえば、それだけで場が和むのです。これは真面目な人ほど、積極的に取り入れて欲しいラインです。

日本人は真面目な人が多いので、本当に教科書的な、お堅いことばかり話題にしがちです。しかし、外国人と本当に打ち解けると、そういう話よりは、下らないゴシップ・ネタであったり、時には下ネタなんかの方がおおいに盛り上がるものです（特にアメリカ人相手の場合、こういった話題の方が多いに盛り上がる傾向があります）。

よく話す笑い話、楽しい話、腹立つ話、悲しい話などはありますか？

会話って一体何でしょう。というか、その前に言葉って一体なんでしょう。言葉とは、あなたの「感情」を表すものです。もちろん、事務的に要件だけを伝えることも出来ます。しかし、それは汎用の英語の「フレーズ」で事足りるものですね。「あれして下さい」「これして下さい」「私はこれがしたい」「これが欲しい」等々、要件だけであれば市販の会話集だけで済むのです。

しかし、それだけの英会話は寂し過ぎます。人間は生きている上で、さまざまな感情に動かされます。喜び、楽しみ、怒り、悲しみ等、いわゆる喜怒哀楽を表すラインというのは英会話において非常に重要な役割を担うものです。笑い話、楽しい話、腹の立つ話、悲しい話のようにストーリー全体を準備しておくのも良いですが、感情と言うのは突発的に沸き起こるものですから、瞬時に自分の感情（喜怒哀楽）を表現できるラインはデフォルトで用意しておくと良いです。

いずれにしても大事なのは、ともすれば機械的・無機質になってしまう「ライン」という人工的なセリフに、あなたの心の底からの「感情」を込めるということです。

政治や世界情勢などに対して、どのような意見があるでしょうか？

外国人は日本人と比べて世界情勢や他国の政治、いわゆるワールドニュース的なものに敏感です。その他環境問題や、最近であれば原発問題、戦争や平和、人権問題、捕鯨や領土の問題などは外国人との会話で盛り上がるトピックと言えます（特にインテリタイプの外国人ほど、そういうトピックが好きです）。

ここで注意すべきなのは、イデオロギーに関する話題というのは、どの世界でも白熱しがちであるということ。特定の主義主張がない限り、あまり過激なラインは準備しない方が良いです。もちろん、しっかりとした考えに基づいた主義主張があるのならば、どんどんラインを作り、準備して英会話での論争に備えましょう。その場合、感情に訴えるのではなく、確固たる事実・考えに基づき、論理的に話す準備をしておきましょう。ただ、個人的には、この手のデリケートな話題については気を付けた方が良いです（宗教がらみは特に！）。

というわけで、ラインの分析が完了したら、いよいよ自分専用のラインを想定（実際にどんなことを話すかを決定）します。この段階でもまだ日本語のままで OK です。ただし、②の「ラインの作成」において、初心者は英訳自体が難しいかも知れませんので、いわゆる定番のフォームに当てはめてラインを作成する方がラクかも知れません。

通常、ラインの想定はあなたの実際の英会話の内容に沿って行います。従って、実際の英会話の機会がない場合は、その分想像力を要することになります。出来れば、ラインの想定は実際の英会話の機会を作り、そこで自分が話すであろう会話の内容を想定しながらラインを決定していくことをお勧めします。

例えば、英会話のレッスンがあるとします。前回のセッションで次回話すこと（トピック）を与えられているのであれば、当然そのトピックについて自分の意見や話す内容を想定することになりますね。または毎回大体の会話の内容や流れがわかっているのであれば、それに基づいてラインを想定してみます。通常はノートなどに、会話の流れを予想し、こんなことを話すだろうな…こんなことを聞かれるかも知れないな…ということを可能な限り想像してみるのです。

英語の習得においては「**想像力**」が重要とよく言われますが、その理由がこの会話内容の想定が出来るかどうかということですね。これが上手な人は、かなりの精度で会話内容を想像することが出来るので、十分な準備を行うことが出来るわけです。もちろん、色々なことを想定して会話に臨み、すべての想定ラインがそのまま 100％ドンピシャで当たるということは有り得ません。特に初めのうちは想定すること自体が難しいでしょうし、準備しているラインの絶対数が足りないので、なかなかうまく行かないと感じるかも知れません。

しかし、それでもめげずに、どんどん想像してライン数を増やしていって下さい。一回二回失敗したからと言ってくじけてはいけないのです。また、英会話のセッション後に、必ず**反省**を行って下さい。想定したラインをうまく使えなかったのであればその理由を考えましょう。また、本当は話したかったけれどうまく話すことが出来なかったトピックがあれば、必ずその日のうちにラインを準備し、次回のセッションで使えるようにして下さい。

Be Prepared!【備えよ常に】が英会話の大原則です（実はこれ、ボーイスカウトの標語でもあります）。備えていないものは逆立ちをしても口から出すことは出来ないと心得ましょう。逆に言えば、備えていれば何も考えずに瞬時に口から出すことが出来るわけです。それが、英語をペラペラと話せるようになる**唯一の秘訣・方法である**と理解して下さい。次のページでは、実際にどのようにラインの想定をノートに書くか、その例を示します。

ラインの想定：ノート記入例：

〇月×日　Jennifer とランチ

① あいさつ： この前は映画の誘いを断ってゴメン

② 相手への気遣い： 元気だった？最近何してた？等

③ 自分の近況報告： - 寒いから全然外へ出ていない

- この前、友達に誘われて飲みに行った

- とても良い店だったので今度一緒に行こう

- ついでに映画も観に行かないか誘う

④ Jennifer の会話想定： - おそらく地震の話をするだろう

- 今年アメリカに帰る話、寂しくなる等

- 今度、私がアメリカに行くよ等

⑤ スキーに行った話：　- ○○スキー場へ行ったら大雪だった

- 人は少ないし最高だった

- Jennifer はスキーが出来るのか？

⑥ 買い物の話題：　渋谷に買い物に行ったらすてきな店を見つけた

Jennifer はどんな服が好きなのか

⑦ 帰りのあいさつ：今日は楽しかった、今度一緒に渋谷行こう等々

これはかなり簡単な例ですが、ラインを想定する場合はもっと細かく書いても OK です。要は、英会話の前に出来るだけ詳細にどんなことを話すか、会話の流れがどうなるかを想像するわけですね。初心者の方は、最初は少し難しいと思いますので、そこまで詳細に想像することは出来ないかも知れませんが、徐々に慣れてきたら、自分のラインだけでなく、そのラインに対する相手の返答も想定し、さらにその先の会話の展開さえも想定してラインを準備しておくことが出来れば完璧です。

いずれにしても、これを行っておくことで英会話はかなりスムーズになります。しかも、現場で単語を思い出し、それを英文法に沿って英作文して…なんて気の遠くなることをする必要がなくなりますので、英会話の前は確かに準備が大変ですが、英会話自体はとても楽しいものになります。というか、これが英会話の「あるべき姿」なのです。これを行うことが出来れば、あなたも必ず英語を話せるようになるはずです。

ただしここで、もしかすると本書を読みながら「**こんな難しいこと出来るわけがない！**」と思われている初心者の方がいらっしゃるかも知れません。確かに、初心者のうちは英会話の内容自体を想定することは難しいでしょう。さらに想定したラインを英語に訳すなんて至難の業に感じられるかも知れません。しかし、ここで決して「出来ない」とか「無理」とか言わないで欲しいのです。

まず、初心者の方はどんなことを英語で話したいのか、どんなことを外国人相手に伝えたいのか、それを日本語で考えてみて下さい。この時も、想像力を最大限に使って、あたかも目の前に英会話の相手がいるような感じで自分が表現したいことを箇条書きで書いてみると良いです。そして、英会話の前に、それらの内容だけでも英語に訳して（完璧に訳す必要はないです。単語だけを調べておくだけで大きな効果があります）、口に出す練習をしておいて下さい。

初めのうちはそんなにたくさんのことは覚えられないでしょうから、話せることも限られます。しかし、一つのことを話せるようになると、次は二つです。二つが四つになり、四つが八つ、八つが十六…というように、ラインの数もどんどん増えてきます。面白いことに、ラインというのは一つ、二つ、三つと増えていくのではなく、**一本の木が枝を伸ばすように、一つのラインにたくさんの関連するラインが成長していきます**。言ってみれば加速度的に、ラインの数が増えていくわけですね。

ですから、最初は本当にこんなので英会話が上達するのかなぁ？と思われるかも知れないのですが、1ヶ月、2か月と続けるうちに見る間に会話力が向上するはずです。したがって、今これを読んでいる時点で「無理だ」とは思わず、まずは1ヶ月、2か月と騙されたと思って実践してみて下さい。絶対に効果・変化を実感頂けるはずです。

②　ラインの作成（定番の型にあてはめる）

さて、ラインの想定が出来たら、いよいよラインの作成に入ります。ラインの作成というのは、要するに英訳のことですね。英訳と聞いて「ええー！」と思われた方、どうか安心して下さい。ほら、「書き言葉」と「話し言葉」の違いを思い出して頂ければ、そんなに心配する必要がないことがわかりますよね。なぜなら、英会話においては英会話専用の英語、すなわち「**話し言葉（口語）**」の英語が用いられ、それは英文法などに厳密ではない、非常にラフでブロークンなものであるからです。

これが論文の英訳であれば、震え上がって頂いても結構なのですが（笑）、英会話のためのラフな口語ラインの英訳ですから、そこまで心配する必要はありません。簡単に言えば、日本語と英語を交換するような訳で最初のうちは十分です。または、より簡単な方法としては、定番のラインの型（フォーム）に当てはめるだけで OK です。

フォームについては既にお話ししましたが、例えば **so ～ that …**で「あまりにも～なので…だ」といった定番のフォームがありますが、これに自分の表現を当てはめれば良いだけということです。何も最初から全てを自分の力で英語にしなければならない！ということはありません。

具体的には、今日とても気温が高くて暑く、外出する気になれない…といったことを表すのであれば、**It's so hot outside**「外はとても暑い」、これに **that** を続けて **I don't feel like going out**「外出する気になれない」、つまり **It's so hot outside today that I don't feel like going out.** で「今日はとても暑いから、外出する気にはなれません」というラインを作り出すことが出来ます。

他にも **I'm good at ～ing.** で「私は～することが得意です」という定番フォームがあります。この骨格の中にたった一語入れるだけで、あなたの「得意なこと」を英語にすることが出来ます。

例：
I'm good at writing.
「私は書くことが得意です」

この **writing** を **talking** にすれば「話すことが得意」になりますし、**using computers** のようにすれば「パソコンを使うことが得意」となります。あるいは、フォーム自体を否定形にして、、、

例：
I'm not good at writing.
「私は書くことが苦手です」

…といった反対の意味のラインを作り出すことも出来ますね。いずれも、コツは「既にある英語の定番フォーム（型・骨組み）」を有効活用するということです。何も一から全てをあなたが一人で作り出す（書く）必要はありません。既にある定番表現から、あなたのオリジナル表現をアレンジして作り出すということです。

なお、私が講師を務めさせて頂いているラインマスター式英語習得法の実践プログラムでは、あなたに書いて頂いた英語を私が直接添削させて頂くオプションをご用意しておりますので、機会がありましたら、ぜひ活用してみて下さい。

③　ラインの記憶と発音練習【ここが一番重要】

さて、ここまでラインの想定とか作成とか、大変な作業をされてきたわけで、「あぁやっと終わった！ここまでくれば後はラクラクか！」と思われる方も多いかと思いますが、ゴメンナサイ。実はこの段階が一番難しいかも知れません。ラインをたくさん作り出すことは簡単でも、そのラインを覚えることが結構難しいのです。その一番の理由が、日本国内に住んでいる以上「**英語を話す機会が少ないから**」ということです。ハッキリ言ってしまうと、日本人が英語を話せない真の原因が、この「英語を話す機会が少ないから」ということに集約されるのかも知れません。

当然ですが、日本国内にいる以上、絶対に英語を話せないと生きていけない…といった状況にある方は稀です。もちろん国際結婚とか、普段から英語をバリバリ使って仕事をする外資系の企業に勤めているとか、そういった特殊な状況を除き、ほとんどの日本人は日常生活で英語を話す必要があまり無いのです。

そこで、英語を話す必要性があまり無いという状況下で英語を話す練習を行うには、自ら積極的に「英語を話す機会」を設けて、そこで話す回数を増やさない限り、なかなかラインを覚えることが難しいと言えます。

さらにネガティブなことを書くつもりはないのですが、人間の脳というものは「必要性」が無いものを覚えることが非常に苦手です。これは私たちの脳機能自体の問題で、要するに私たちが生きていく上で必要なことは忘れ難いものですが、それ以外のこと（つまり、実生活であまり使わない英語の語句や表現等）はどんどん忘れていくという脳の生理学的な性質に由来します。

逆に言えば、私たちが生きていく上で必要のない記憶をいつまでも脳内に残していたら、私たちは気が狂ってしまうでしょう。今日起きたことで大事なこと、明日も覚えておく必要があることは忘れませんが、一週間前に食べた晩ごはんのおかずを覚えている人はあまりいませんよね。そうやって、古い情報や私たちが生きていく上で不必要な情報はどんどん記憶から削除されるような脳の仕組みになっているのです。

では、一体どうすればラインをしっかりと覚え、記憶を保持できるのでしょうか。先述の通り、記憶というのは脳が「必要である」「重要である」と感じたことに関しては強固に残ります。また、必要・重要と認識されなくても、何か強烈な出来事があると、それと関連づけて脳内に強く印象づけられることがあります。

したがって、ラインを覚えるにはこの原則を用いると良いのです。つまり、ラインを想定して作成する段階で「どうでも良いライン」は作らないことが大事です。ラインマスター式の初心者の場合、最初はどのようなラインを作れば良いのかピンとこないので、とにかく何でも良いからラインにしてしまえ！とばかりに、自分の英会話に必要のないラインまで作成してしまいがちです。

そういう意味でも、ラインを想定する段階で…

1．自分がどうしても話したいと思うこと

2．これだけは相手に絶対伝えたいと思うこと

3．何が何でも表現したいと思うこと

…に限定してあなたのラインを作成して下さい。

どうでも良いライン、よく分からないけれどとりあえず作ってみた…というラインは作っても覚えることが出来ません（記憶に残らないからです）。あるいは何とかして覚えることが出来ても、すぐに忘れてしまいます。

よって最初は「数」よりも「質」にこだわった方が良いです。そして、慣れてくると、「質」にこだわったラインの派生として、その他のラインも自然におまけとして記憶に残るようになります。また、作成したラインを実際の英会話で一回でも使うと記憶に残りやすいです。これは、ただ単に机上の空論として想定・作成したラインではなく、実際に使うことで強烈な印象を脳に与えることが出来る原理に基づくものです。

実際、私も留学中から今日に至るまで、おそろしい数のラインを作って覚えているわけですが、大半は忘れてしまっています。しかし、一度でも会話で使ったラインというのは、どんなにバカバカしいものであっても、あるいは「必要性」がなくても、意外と強固に記憶に残っているのです。そのラインを初めて使った会話の場面まで鮮明に覚えているほどです。

したがって、ラインを記憶するためには、ラインを作成するだけでなく、それを**必ず実際に使ってみる**ようにして下さい。もし英会話の機会が無いのであれば、独り言で言ってみるだけでも効果があります（ただし、出来れば「より強烈な印象」を体験するため、実際に外国人と会話をした方が良いです）。

それから、ラインというのは「生物（いきもの・なまもの）」ですから、ケアをしないとどんどん腐っていきます。一度覚えたラインでさえ、しばらく使っていないと口から出てこなくなることがあるほどです。ですから、ラインは常に口癖のように口にする習慣をつけ、また一つのラインを覚えてそれでオシマイと考えるのではなく、常にラインをブラッシュアップして、洗練したラインに変化させるようにしましょう。

例えば一つのラインを覚えて、ネイティブや他のバイリンガルの日本人が同じような表現をもっとカッコよく、自然に口にした場合は、それを参考に自分のラインを改善します。常にラインは**進化させるべきもの**と考えて下さい。これによって、あなたのラインはより自然な、クールな表現へと変わっていくわけです。そして、今カッコいい英語を話すことが出来る日本人は、そんな作業を日々繰り返しているのです。

ネイティブらしい自然な発音を手に入れるには？

ラインを覚える際には、当然ですがラインを口に出す（＝発音する）わけです。ある程度英語を話すことが出来る人であれば「上手」「下手」は別として、英語の発音を知っているわけですから、問題なく口から出すことは出来るでしょう。しかし、初心者となっては、英語の発音さえわかりませんので、少なくともお手本が必要になります。それも出来ればネイティブの発音のお手本が欲しいところですね。

一昔前なら（…いえ、私の時代は二昔（ふたむかし）以上前ですが）、自分で作ったラインの音声サンプル（お手本）を手に入れるなんてことは、まず不可能でした。しかし、今はインターネットがあります。しかも、入力した英文をそのままネイティブのアクセントで自動読み上げしてくれる無料のサービスがいくらでもあります。この手の「発話エンジン」はたくさんあって、本当に正確性を求めるのであれば有料のサービスを使ってみるのも良いでしょう。ただし、英語学習者がラインの発音を確認するために利用するのであれば、ハッキリ言って **google 翻訳の自動読み上げ機能**だけで十分です。

英文を入力してスピーカーマークをクリックするだけで英語の参考発音を聞くことが出来ます。
スピードも二段階あり、クリックする度に「標準」「遅め」が切り替わります。

英語のラインを英語らしく発音するコツ

さて、自分が作成したラインの英語音声を聴いてみると、色々と気付く点があると思います。例えば、日本人は一つ一つの単語を区切って発音する癖がありますが、ネイティブ・スピーカーの実際の発音はもっと流れるように、聴こえますね。ここが重要な気付きですが、ネイティブ・スピーカーは英語を「単語」単位で区切って発音せず、もっと大きな「音のかたまり」あるいは「意味のかたまり」で区切って発音しています。これをチャンクと言うこともありますが、英語のラインを英語らしく発音するためには、この英語特有の発音の「かたまり」を意識する必要があります。

例：

How come you have never called me?

「なぜ電話をくれなかったの？」

【日本人の発音】

ハウ / カム / ユー / ハブ / ネバー / コールド / ミー？

【ネイティブの発音】

ハゥカミューヴ / ネヴァコゥミー？

はい、これがいわゆるリンキングと呼ばれる英語の音の変化の一例で、単語と単語の子音と母音の関係で音が連結する（リンキング）ことによって生じるものです。これは日本語の発音でも怒る変化です：

「では、そういうことで頼みます」
↓↓↓
「じゃ、そーゆーことで頼んます」

ここで、「では」は「じゃ」、「そういう」が「そーゆー」、「頼みます」が「頼んます」という感じで変化しますね。これは口語では普通の現象で、今さら驚く話でもありません。しかし、それなのに英語のこととなると、多くの日本人はリンキングを気にしなくなるのです。

つまり、**How come you have never called me?**　を

ハウ / カム / ユー / ハブ / ネバー / コールド / ミー？

のように、すべての単語を一つ一つ区切って、発音しようとするのです。この発音の仕方を日本語で例えるとすれば、、、

「な・ぜ・で・ん・わ・を・く・れ・な・か・っ・た・の・？」

と言っているのと同じぐらい不自然に聞こえるということです。場合によっては理解してもらえない可能性さえあります。したがって、自分のラインの発音をネイティブらしく発音するためには、単語単位で区切って発音するのではなく、ネイティブ・スピーカーが区切っている慣用的な音・意味の区切りで英語を発音する習慣を身につけるようにして下さい。そのためには、英語の参考発音などをお手本に「聞こえるまま」発音すると良いです。変にアレンジするとおかしくなるということです。

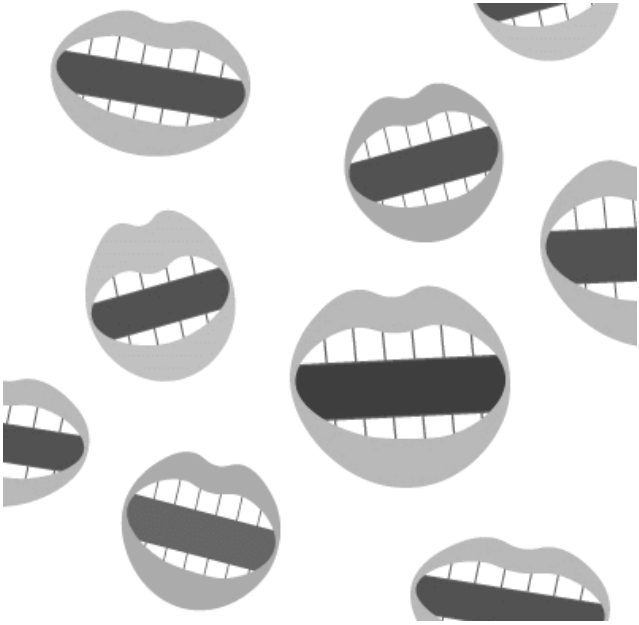
ただ、「それが難しいんだよ！」と言う方の気持ちもよくわかります。実際、私自身もかつては相当ひどい英語の発音でしたので…。ただ、ひとたびそんな「ネイティブ・スピーカーらしく発音するコツ」を体得してしまうと、後は習慣で発音がどんどん改善されてきます。また、これも一つのヒントですが、あなたがそれぞれの英単語に対して持っている固定観念のような発音を一度忘れてしまうと良いです。

例えば私たち日本人には **have** の発音は「ハブ」だろうという固定観念があります。確かに中学校で **have** の発音は「ハブ」だと教えてもらったわけですから、「ハブ」で何が悪い！？という気持ちになるでしょうが、実際の英会話ではそれぞれのラインによって **have** が「ハヴ」であったり、「ヘァヴ」であったり、あるいは単に「ヴ」であったり、はたまた先ほどのように **you** が続くと「ヴュー」であったり「ヴィ」に変わったりすることが多々あるわけです。このような変化は **have** がどういった使われ方（置き方）をされているかによって大きく変化します。また、発音している人によっても変わります。

したがって、ここでも重要なことは個々の単語の発音ではなく、「ライン」の中でどのような単語が隣に来ているか、あるいはどのような英文の中で使われているのかということなんですね。ここでは **have** という簡単な単語で説明しましたが、もっと難しい単語の発音であっても、ラインの中の場所・隣り合う単語によってその音は七変化するというわけです。よって、日本では中学校や高校の英語の授業や大学受験のための英語の勉強において、個々の単語の発音記号などを厳密に覚えさせられますが…それが実際の英会話でどれほどの意味があることなのか？と言えば、あまり意味が無いと言わざるを得ません。

それよりは実際のラインを作り、その参考発音を聴き、聴こえるままにより大きな音・意味の慣用的な「**かたまり**」で発音を覚えてしまった方がよっぽど実用的であり、有効であると言えます。これは本当に正論だと思うのですが、なぜこんな簡単なことに日本の英語教育の専門家たちは気付かないのでしょうか、本当に不思議です。

というわけで、少し話が脱線してしまいましたが、英語の発音をネイティブっぽくするコツはそんなに難しい話ではなく、単に個々の単語の発音を重視するのではなく、ラインを作ったら、そのラインの中で「**音や意味のかたまり（慣用的なかたまり）**」をベースに発音を覚えると良いということです。これは別の言葉で言えば「ライン」や「パーツ」といった単位で丸ごと発音を覚えるということですね。



④　ラインを用いた英会話実践【ここも重要】

それでは、いよいよスピーキングの最終段階、晴れ舞台ですね。ラインの想定、作成、記憶、発音の練習を経て、いよいよ英会話での実践ということになります。日本に住んでいると、ラインを作ったり、覚えたり、発音の練習をしたりするまでは何とか一人でも出来るわけですが、肝心の英会話となると、やはり一人では出来ません。ここはどうしても相手を見つけるしかないのです。

会社や学校で外国人と話す機会がある人は恵まれていますね。そういう機会にガンガン、自分が作ったラインを試してみて下さい。もしそういう機会がない場合は、やはりお金を払ってでも英会話スクールや教室に通い、ラインを試す機会を作った方が良いです。英会話スクールや英会話教室というのは、まさにラインを準備した人が行くべき施設だからです。言ってみれば、実験の場です。そこで、これまでに苦労して作り、覚えたラインの数々を思い切り試してみましょう。

初めて自分が作ったラインが外国人に通じる瞬間というのは、何事にもかえがたい至福の瞬間です。特に相手がきちんと理解してくれて、そのラインに対する反応を示してくれた時、「ああ、英語を勉強してきて良かったなぁ…！」と感激することでしょう。そして、そのような小さな「**成功体験**」を大切にして下さい。日本人は真面目で自分に厳しい人が多いので、ちょっとでも失敗すると「ああ、やっぱり駄目だ、自分はまだまだだ！」となってしまうのですが、そのような「失敗体験」に目を向けるのではなく、小さくても良いので一つ一つの「成功体験」に目を向けるようにして下さい。このメンタリティのコントロールがとても重要です。

こういった小さな、些細な「成功体験」が続くと、人間はモチベーションを維持することが容易になります。ああ、またあの至福感を味わいたいと思うようになり、大変な作業もラクにこなせるようになるというわけです。一方、「失敗体験」にばかり目を向ける人は、失敗した時の辛さ、恥ずかしさ、挫折感ばかりを思い出します。それが続くと、もう勉強を続けたくなくなります。それは当然ですよね、自分が失敗するなんて、誰もが嫌なことなのですから。

だから、一所懸命に用意したラインを思い切って外国人に向かって発してみて、それが通じたら…そしてそのラインに対して反応を示してくれたら…その成功体験、至福感、嬉しさをしっかりと噛みしめて下さい。決して忘れないで下さい。その至福感、嬉しさ、高揚感が、次のライン作成の原動力となるわけです。「今日はこんなことを話すことが出来た。よし、では次は〇〇と□□について話してみよう！」とか、「今日はこれがうまく言えなかったけれど、その部分を補強して次回再チャレンジしてみよう！」というポジティブな流れを作ってくれるのです。

このポジティブな流れというのが非常に大切で、ひとたびポジティブ方向に動き始めると色々なことが勝手にうまくいくようになります。ラインを作るのが大変だったという人も、ポジティブ方向に動き始めると、大変なことさえ「喜び、楽しみ、ワクワク感」に感じられるようになるのです。逆に、失敗体験の方ばかりに目がいくネガティブな流れは、これも一度流れ出すと非常に強い力がありますので、人とその思考をどんどんネガティブ方向へと巻き込んでいきます。すると、ちょっとした成功体験なんかちっとも嬉しく感じず、しかもライン作りの大変さ、辛さ、難しさにばかり目が行きます。「ああ、通じなかった。また喋れなかった。どうせ私なんか無理だ、ダメだ、不可能だ、出来ない！！」となってしまうのです。

これは本当に怖い流れ・力ですから、本当に気を付けて下さい。自分は大したネガティブの流れではないと思っていても、一度流れ始めたら、後になって止めることが出来なくなりますから…。残念なことに、私もこれまでにそんな気の毒な人をたくさん見てきたものです。本当は、皆十分に英語を話せるようになる素質があるのに、自分で自分にブレーキをかけてしまうのはもったいないですね。

さて、実際の英会話においてラインを使う時には以下の点に気を付けて下さい：

１．臨機応変にラインを選ぶこと

これも日本人の真面目さ故の話ですが、このラインと思い込んだら、それしか使えない人が多いです。会話というのは元々「流動的」なものですから、必ずしも想定通りにすべてがいくとは限りません。そのために、幅広いラインを準備しておくのです。

また、想定外の展開になった時にも決して慌てず、臨機応変にラインを選び、また組み合わせを変えて、会話のリズムを崩さないようにしましょう。確かに初心者には大変かも知れませんが、これが「英会話」の難しさでもあり、面白みでもあるのです。

慣れれば、ラインどうしの一部をリアルタイムで組み替え、その場で新しいラインを試してみたりすることも出来るようになります。ぜひ果敢に挑戦してみて下さい。

２．通じなかった時はチャンスと思うこと

当然ながら、こちらは英語を母国語としない日本人です。一所懸命に想定し、作成し、覚え、発音の練習をしたラインであっても、悲しい哉、外国人にまったく通じない！という場合もあります。そんな時、落ち込んでしまう人がいます。一つ通じなかったら、もうそれで「ダメだぁ」となってしまう…。 そんなことでは、バイリンガルの道は制覇出来ません。ちょっと通じなかったぐらいで落ち込むのではなく、それどころかむしろ「**チャンス**」だと思って下さい。

なぜ「チャンス」なのか？　それは、そのラインが間違っているということ（＝通じないラインである）ということを教えてもらえたからです。そういう「訂正・是正」の必要性に気付かせて貰えたから、ということです。実際にこれは、よく考えてみたら物凄く貴重なチャンスなんですよ。だって、日本人であったら、絶対にわからない「何らかの問題」を外国人にチェックしてもらったようなものなのですから。そんな時は、決して落ち込まず、相手の外国人にラインのどこがいけなかったのかを教えてもらうようにして下さい。

実は、ここがとても大切です。英会話の際は、話している方も舞い上がっていて、そこでいちいち間違いの訂正や、どこが間違っているのかについて訊く人は少ないですが、出来る人はここが違います。「**転んでもタダで起きない**」というのはまさにこのことですね。特に有料の英会話であれば、外国人講師を使い倒してでも、元を取るのです。これが、英会話スクール・英会話教室の正しい使い方と言えます。だから、どんどん果敢に挑戦して、失敗して、恥をかいて、お土産をたくさんもらってきて下さい。転んでもタダでは起きない精神が重要です。

３．会話の主導権を握ること

日本人の英会話がうまく行かないのは、この「会話の主導権」が原因であるケースが多いです。つまり、会話の主導権を相手に握られてしまい、相手の話を聞かされるだけになってしまうということです。特に有料の英会話であったら、これは絶対に避けたいところですが、残念なことに多くの日本人が英会話講師の一方的な話に相槌をうつのが精一杯の状態というのが現実です。

一般に会話というのは、日本語であっても、英語であっても、必ず一方が主導権を握るものです。もちろん、それは最初から最後まで一人が話し続けるという意味ではなく、盛り上がっている会話であれば、例えば A さんと B さんの会話で、A さんが主導権を握ったかと思えば、しばらくして B さんの話が盛り上がり（B さんが主導権を握り）、また A さんが主導権を奪回する…というような流れで行われるわけです。

ここで重要なのは、ラインマスター式では想定して作成したラインをベースに会話を進めるわけですが、相手に会話の主導権を握られると、こちらのペースで会話を進めることが出来なくなります。すると、想定した会話から大きく逸脱する可能性が高まるわけですね。もちろん上級者になって、ある程度の一般会話のラインはすべて頭の中に入っている状態であれば、相手がどんな話に展開しようと、たいていの場合はラクに対応出来ます。

しかし、初心者や、まだラインマスター式での会話に慣れていない人の場合は、相手に主導権を握られるともうオシマイです。相手の主導権で、どんどん会話を進められてしまうからです。そして、準備していないトピックになれば、当然話せるものも話せなくなってしまいます。

これを避けるために、なるべく会話の主導権をこちらにキープしておく必要があります。そのためには、積極的に話題提供するように努めて下さい。会話というものは初めのきっかけ（ネタふり）を出した者が主導権を握る傾向があります。したがって、英会話の内容の想定を行う際に、どのようなトピックにするかしっかりと定めておくことが重要です。**常に先手、先手で先制攻撃する**のが英会話で成功する鍵と言っても良いでしょう。

一方、多くの日本人は控えめな方が多いですから、自分から話題を振るなんて失礼なんじゃないかしら…と思われる方が多いですが、そんなことはまったく心配しない方が良いです。英語を話す時は日本人であることを忘れて、どんどんアグレッシブに、ガンガン自分を出して話を進めて下さい。これが一つの大きな秘訣と言えます。実際、英語が上手な日本人は会話も上手です。それは日本語の会話であっても、ペラペラと、あることないことを面白おかしく話すことが出来るんですね。

おしゃべりな性格と言えばそうなんでしょうが、結局この「**積極性**」が大事なんです。何でもいいから、とにかく自分から口に出す。どんどん、思っていることを口に出す。ペラペラペラペラ口に出す。これが出来る人が会話の主導権を握る人であり、英語の上達が早い人なのです。

４．英会話が終わったら、その日のうちに反省会

さて、何だか真面目くさいことを書いてしまいましたが（笑）それでも英会話後の反省会は重要です。特に、英会話が終わると、その時は「あ～疲れた！」という気分になって、家に帰って机に向かう気もしないかも知れませんが、ここでしっかりと「反省会」が出来る人が、やはり伸びる人なのです。まぁ「反省会」なんて言っても、一人でシミジミとやるわけですが…。英会話後の一人反省会では、以下の点について反省してみて下さい：

①　どのラインが通じなかったか？

これは既にお話しした通り、会話中に通じないラインがあれば、その都度相手の外国人に訊いてみるのが一番です。ただし、仕事関係の会話とか、その他必ずしも相手に添削・校正を頼める会話とは限りませんので、そのような場合は、家に帰ってから通じなかったラインを再点検してみましょう。多くの場合、難しい単語を使い過ぎていることが原因で通じないことがあります。

これは私もよく経験したのですが、英語の中級者・上級者になるにつれて、どうしても難しい単語を使いたくなるのです。いくら「シンプルに」「簡単に」と言われても、あまりに単純な単語は使いたくない、「だってワタクシはもう上級者ですもの！」という気持ちや「へへん、僕はこんな難しい単語だって知ってんだぞ！」という虚栄心から、難しい単語を使ってしまいがちなんです。

しかし、多くの場合、難解な単語というのは発音も難解であり、さらにはネイティブ自体も知らないような単語である可能性もあります（意外と知られていませんが、国によっては日本のように最低限の教育を全国民がきちんと受けているとは限らないので、英語を母国語とする人々であっても難しい単語はわからない、ということがよくあるのです）。

少し話がずれてしまいましたが、もし通じなかったラインに難解な単語が含まれている場合には、同じ意味でもう少し簡単でシンプルに出来ないか再検討してみて下さい。また、冗長なラインも通じにくいです。これも「簡潔」にすることが重要ですね。**「シンプル」「簡単」「簡潔（短く）」**…が、ライン作りの三大原則です。

②　会話の流れは想定通りだったか

これも先に説明した通り、100％想定通りの会話というのは存在しないです。しかし、大筋の流れとして、大体自分が考えていた話の流れになったかどうかを思い出してみて下さい。もしまったく想定外の会話になってしまった場合には、何がいけなかったのか考えてみましょう。

多くの場合は、先ほども説明した通り、会話の主導権を相手に握られてしまい、相手主体の会話展開になってしまったことが原因と言えます。また、それ以外にもトピックの選び方に問題がなかったか反省してみて下さい。例えば、女性相手に車の話や野球の話をしても、盛り上がらないことが多いです。逆に男性相手に美味しいランチのお店やスイーツの話、ファッションの話をしても盛り上がらないことが多いです。

このように、英会話のトピックを想定する際には、相手の話の好みまでも想定に入れなければいけません。なるべく、相手が食いつくトピックを考えるべきです。その上で、そのトピックに関する自分のラインをキチッと準備しておけば、英会話が盛り上がらないわけがないのです。

③　相手に質問されたことで答えられなかったことは何か？

これはすごく重要です。なぜなら、外国人からの質問というのは、大方決まったものが多いのです。それは、外国人が共通して抱く日本人に対しての質問であったり、日本の文化や習慣に関する質問であったりします。

つまり、一度受けた質問は、他の英会話においても外国人から別の機会に訊かれる可能性が高いわけですね。こういう質問であなたがラインを準備しておらず、うまく答えられなかったものがあれば、現場でメモを取るなり、覚えておくなりして、必ずその日のうちにライン化し、頭の中に入れるようにして下さい。先にも説明した通り、ラインを記憶するには「**強烈な印象**」と共に頭に入れるのが一番なのです。つまり、英会話直後の、一番記憶に残りやすいタイミングにその重要なラインを頭の中に入れるべきというわけです。

このタイミングを逃すと、後はないと思って下さい。たいていの場合は次の日、三日後、一週間後…と経つうちに、一体どんな質問をされて、それに答えることが出来なかったのかさえ忘れてしまうものです。当然、質問内容を忘れてしまえば、その質問に対するラインを作ることも出来なくなります。

したがって、何度も言う通り、英語が通じなかったり、うまく答えられなかった時は「チャンス」だと思って下さい。もっと言えば、そういった失敗を体験するために英会話に臨むのです。

少なくとも初心者〜中級のレベルであれば、「**失敗するために英会話に行く**」と思っていた方が良いです。そして人よりも多くの失敗を体験し、その都度「正解」を頭に入れます。通じないラインは外国人に訂正してもらい、準備していなかったラインはその日のうちに作成して頭に入れる。

この一連のプロセスを、しっかりと実践すれば、あなたの英語力はどんどん向上するはずです。少なくとも、今のレベルから下がっていくことは有り得ません。だから、英語を身につけることはそんな複雑な話ではないのです。ただ、失敗を繰り返して、その都度訂正し、学んでいけば良いだけの話です。

ラインマスター式リスニング 準備編

なぜ英語を聴き取れないのか？

オンライン英会話でも、実際の英会話でも、ラインを用意して口に出すことが出来れば、比較的容易に誰でも英語を話すことは可能です。これは会話の本質として、スピーキングが**【自分主体】**であるからですね。下手な英語でも口から出してしまえばあとは何とかなるのがスピーキングです。

一方、リスニング（聴き）については**【相手主体】**であるため、相手次第でさまざまな変化球が飛んで来ます。早口の英語、濁声の英語、訛っている英語、スラング等々、それだけ守備範囲を広げる必要があるということです。このため英語のリスニングは聴き取れる時と聴き取れない時の差が激しいと言えるのです。そもそも、なぜ日本人は英語を聴き取ることが出来ないのでしょうか？それにはさまざまな理由考えられます：

1. **知っている語句や表現（ライン・パーツ・フォーム）が不足**
2. **英語の音を捉えることが出来ない（言葉として認識出来ない）**
3. **相手の英語が早過ぎる、訛っている、聴き取り辛い**
4. **外国人が怖い、聴き取れないと思っている（メンタルの問題）**
5. **トレーニングの絶対的な負荷が不足（聞き流しているだけ等）**
6. **聴き取れても覚えていられない（リテンション力の問題）**
7. **集中して聴いていられない**

これらの各問題の詳細については、何となくでも分かっている方が多いと思いますので割愛しますが、上記以外で大きな問題となる点が一つあります。それが「**包括的なリスニング力の欠落**」という問題です。

「包括的なリスニング力」の欠落

英語を聴き取れないという理由はたくさんあります。実際、母国語以外の言葉を聴き取ることは大変なことです。しかしあまり難しく、複雑に捉えることもよくありません。基本的には、リスニングというものは「**コインのつかみ取り**」のようなものなのです。

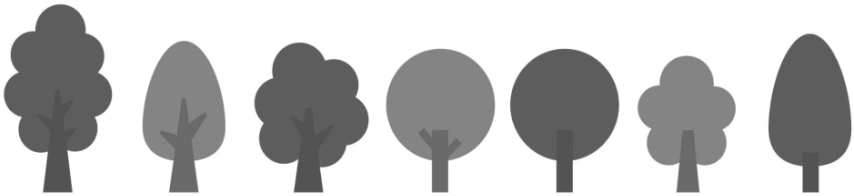
つかみ取りとは、硬貨や紙幣、あるいは飴玉等を箱の中に入れて箱上部の穴から手を入れ、それを出来るだけ多く掴むゲームのようなものですね。この「出来るだけ多く」という部分が、まさに英語のリスニングと同じ性質と言えます。英語が聴き取れない…と嘆き続けている人は、まさにこの「つかみ取り」で 100 円玉や飴玉を**全部つかみ切れない**…と言って嘆いているようなものなのです。そもそも、英語でも日本語でも、聴き取りを行う際に「一言一句すべて」を聴き取れる人はいません。

これは一つの原因にディクテーションという有名なトレーニングがあり、そのトレーニングで英語音声を聴きながら、英語を逐一厳密に書き取る…ということをするわけですが、このイメージで英語を聴き取らなければいけないのではないか？と感じている方が多いことが考えられます。ディクテーション自体は非常に高負荷の、良質のトレーニングですが、その目的は口語のボキャブラリー（単語、慣用句、パーツ・フォーム等）を抽出して覚えることにあります。もちろん聴き取りの練習にもなりますが、そのような厳密な聴解法で聴き取っているネイティブ・スピーカーはいません。つまり、英語を聴き取る時の原則として出来るだけ多くの情報を把握することを目的とするが、一方で「つかみ取り」のように全てを捉える必要はない…というスタンスを理解することが大切です。

この感覚が理解出来れば、英語を聴き取るということが、一つ一つの単語をチマチマと捉えるということよりも、より「**包括的な視点**」で聴解することが重要であるということがお分かり頂けるでしょう。

よく「木を見て森を見ず」と言いますが、まさにそういうことですね。もちろん「森ばかり見て木を見ない」のもいけませんが、基本的には英語音声の全体的な、包括的な視点・尺度からの聴解がベストということです。そのような聴き取り方をすれば、キーワードが聴き取れた時に、キーワード単体の意味（訳語）だけで理解するのではなく、英語音声全体の流れや、そもそも何の音声なのかという、全体のテーマや主旨からより適切な理解が可能になります。特に英語の聴き取りが苦手な人の特徴として、「木」ばかりに固執して微視的、局所的な解釈しか出来ないということがあります。単語単位で、非常に狭い視野で意味を取ろうとするので、ワケがわからなくなってしまうということです。

顕微鏡写真を見せて、これは何でしょうか？なんていうクイズがありましたが、それと同じですね。目を近づけすぎると、それが一体何だかわからなくなるのです。 しかし、そんな時は一歩下がって全体像を捉えるようにしてみて下さい。英語音声なら、全体の流れ、他の単語や表現とのつながり、そもそものテーマや背景（バックグラウンド）という巨視的な観点から内容を把握しようとするのです。それが、包括的なリスニングということです。



英語の研究家にならないこと

さらにリスニングにおいては「英語の研究家」にならないよう注意して下さい。これはどういうことかというと、特に英語の音声というものは、原稿（スクリプト）が用意されているニュース音声やオーディオブックの音声を除き、ほとんどの場合（英会話等）は、**即興で話されている言葉**です。つまり、ハッキリ言うと文法がメチャクチャであったり、前後関係がバラバラ（倒置）、重要語が省略されていたりと、定型の器（うつわ）で解釈することが出来ない言葉ということです。そんないい加減なものを日本人は（言い方は悪いですが）バカ丁寧に英文法に則って、これは現在完了形だから云々とか、時制の一致でどうとか、可算名詞の複数形がどうとか、ガチガチに厳密なルールで捉えようとします。特に英語が好きな人ほど、そのような頭の固い解釈を好むのです。例えば、わかりやすく日本語の表現で説明しますと、、、

「今日、家に帰ったらビール飲みながらテレビ見るんだ」
「今日、うちに帰ったらビール飲んでテレビ見るつもり」
「今日、自宅戻ったらビール飲み、テレビでも見る予定」

…という三通りの言い方があるとします。いずれも、「今日帰ったら、ビールを飲んでテレビを見る」ということが言いたいわけです。日本人からすれば、どれも同じ意味ですよね？それを、わざわざ「飲みながら」と「飲んで」は時制的にどうとか、「見るつもり」はその場で思ったこと、「見る予定」は予め決めていたこと…等々、細かく説明するのが、いわゆる英語の研究家（別名：英語オタク）ということです。

確かに、厳密に言えば、三つの表現には微妙なニュアンスの違いがあるでしょう。しかし、そんな細かいことを気にして日常会話をしている人っていますか？

ここが、日本人の「英語研究家」たちの困ったところなのです。要点として「今日帰ったら、ビールを飲んで、テレビを見る」ということが言いたいのであれば、前頁の三例の表現のいずれでも OK ということですね。そして、それを聴き取る時も、細かい英文法事項を気にし過ぎることはない、ということです。

もっと包括的に、もっと大雑把に、もっとドンブリ勘定で聴き取るということが、おそらく日本人にとって一番のリスニングの鍵となるのではないでしょうか。次頁からは、私が日頃どの程度「いい加減に」英語を聴き取っているか、正直に告白しますので、どうか驚かれないよう読んで下さい。

通訳者はどのようにして英語を聴き取っているのか

自分がどのように英語を聴き取っているのかを説明するのは意外と難しいです。なぜなら、英語にしても日本語にしても、実際のところはほとんど「無意識」で内容を聴き取っているわけで、それを客観的に言葉で説明するのは、例えば「納豆の味ってどんな味？」という質問に答えるのと同じくらい難しいです（笑）。

しかし、今回は出来る限りわかりやすく、普段私がどのようにして英語を聴き取っているかを言葉で表現することで、今英語が聴き取れずに苦しまれている方の参考になればと思います。「なーんだ、そんな感じで聴き取ればいいんだ」と安心して頂ければ幸いです。

まず、既に何度も説明している通り、英語の音声を聴き取る際に、既に英語を聴き取れるようになった人は一語一句厳密に聴き取ろうとはしません。英語音声の中で、聴き取れた語のみを拾い、そこから内容を推測して理解しているのです。私の場合、聴き取れるのは以下のような語句です：

① 自分が知っている語句や表現（当然、知らなければ聴き取れない）

② 強調された語句や表現（重要なキーワードは自然に強調されます）

③ 繰り返し出てくる語句や表現（繰り返す＝重要ということ）

④ 完全には理解できないが、おそらくそういう意味だと推測できる語句や表現

⑤ 科学的に説明は出来ないが、何となく重要だと感じる語句や表現

当然ですが、まず大前提として、あなたが知らない語句や表現は、いくら音として聴き取れたとしても理解は出来ません。耳から入って理解出来るのは、あなたが知識として知っている語句や表現に限られるということです。そういう意味でも、なるべく多くの語句や表現を知っておくことが大切ですね。

しかし、ただ単に単語のボキャブラリーが多いだけでは歯が立たないというのもリスニングの特徴です。なぜなら、リスニング、すなわち英語の音声では、単語と単語がつながり合い、まったく異なる音のカタマリになってしまうからです。これをリンキングと言いますが、例えば **I want to tell you〜**というラインがあって、これを単語レベルで言えば「アイ・ウォント・トゥ・テル・ユー」となるわけですが、実際には「アワナテリュ」と、かなり短くなります。

つまり、**I** がアイで、**want** がウォントで…のように単語単位で考えていると、「アワナテリュ」という一まとまりの音が耳に入っても、それが **I want to tell you** であることを認識出来ないわけですね。これを認識するためには、単語単位でボキャブラリーを構築するのではなく、何度も言いますが、ライン単位（もしくはライン・パーツやフォーム単位）で「音」も「意味」も知っておく必要があるのです。ここがとても大切なポイントですので、必ず理解して下さい。

次に、裏ワザ的な話になりますが、英会話でもニュース音声でも、相手が人間であれば「重要なキーワード」というものはストレスがかけられて発音されます。それは単純に声が大きくなったり、ゆっくりと発音されたり、何度も繰り返されたりするので、すぐにそれとわかるようになります。逆に言えば、よく聴き取れない語句や表現にはあまり重要な意味が隠されていないということでもあります。しかし心配性の日本人は「聴き取れない箇所」にこそ重大な何かが隠されていると慄くのです。

実際には聴き取り辛い語句・表現はほとんど大した意味は隠されておらず、大体 30〜40%程度の重要なキーワードだけを拾うことが出来れば、音声全体の意味を把握することは難しい話ではありません。というか、実際ネイティブ・スピーカーはその程度の認識（情報）で内容を理解しています。それは私たちが日本語を聴き取っている時も同じです。

ですから、何度もしつこく繰り返して申し訳ありませんが、とにかく英語音声の全てを聴き取ろうとしないで下さい。重要なのは、あなたの耳に「**印象的に残った語句や表現等**」です。それ以外は、内容理解に大きな影響を与える情報ではないと割り切ってしまった方が良いです。もちろん、出来る限り多くの語句・情報を聴き取れることに越したことはありませんが、そこには限界があります。だから、あまり深追いしない方が良いのです。先ほどの「つかみ取り」を思い出して下さい。

それから、**④完全には理解できないが、おそらくそういう意味だと推測できる語句・表現**と、**⑤科学的に説明は出来ないが、何となく重要だと感じる語句・表現**というのも意外と重要です。ここから言えることは、「何となく…」とか「全体の印象から…」とか、「大体のイメージで…」という感覚的な理解が最終的には助けになるということです。

これは体験的・体得的に養う部分かとは思いますが、決して軽視しないで下さい。人間の第六感的な、直感とか、そういう非科学的な力なのかも知れませんが、そういう感覚を研ぎ澄ますことも大切です。言ってみれば、一つ一つの語句や表現といった表面的な言葉の情報と、相手の表情やジェスチャー、既知のバックグラウンドといった付加的な情報、そして科学的には説明出来ないけれど、直感やカンといった感覚的な情報を総動員させることで英語は聴き取れるようになると言っても過言ではないのです。

実際の英語音声を使った説明

では、ここで実際の英語音声を使って、私がどのように英語を聴き取っているかを説明しましょう。音声は有名なスティーブ・ジョブズ氏が2005 年にスタンフォード大の卒業式で行ったスピーチの一部です。以下に YouTube の動画 URL を記載しておきますが、万一削除されてしまった場合には「Steve Jobs」「Stanford」等で検索してみて下さい。おそらく、このスピーチが完全に削除されることは今後ありえないでしょう。それぐらい、有名なスピーチです。

Steve Jobs' 2005 Stanford Commencement Address
https://www.youtube.com/watch?v=UF8uR6Z6KLc

まずは冒頭 0:20~0:55 あたりまでだけで構いませんので聴いてみて下さい。

如何でしょうか。多少は聴き取れましたか？もちろん、早過ぎて何を言っているんだか分からない…という人の方が多いでしょうから、それは心配しないで下さい。ジョブズ氏の英語はそれほどゆっくりとしたものではありません。いわゆる、ナチュラル・スピードの英語です。

ここで、一般的な日本人であれば次頁のような語句を聴き取れたのではないでしょうか：

■ **あなたが聴き取れたかも知れない語句・表現：**

I'm	「私は」
today	「今日」
universities in the world	「世界の大学」
truth	「真実」
I never graduated	「私は一度も卒業しなかった」
college	「大学」
this is closest	「これが一番近い」
college graduation	「大学の卒業式」
today	「今日」
I wanna ～	「私は～したい」
three stories	「三つの話」
my life	「私の人生」

もちろん、あくまでも上記は一般的な日本人が「聴き取れるかも知れない語句・表現」の一部ですから、すべての語句は聴き取れなくても心配しないで大丈夫です。

ただし、ここで上記の語句や表現を何とか聴き取ることが出来たと仮定すると、次頁のような内容を推測することは可能かも知れません。

聴き取れた語句・表現から推測するリスニング

■ スティーブ・ジョブズ氏のスタンフォード大学の卒業式でのスピーチ

＊ 前頁表内に記載の聴き取れた語句・表現のみからの推測例（【 】 内が聴き取れた語句・表現）。

【私は】【今日】【世界の大学】

➔「今日、世界に誇る名門大学でスピーチ出来ることを光栄に思います」

大学の卒業式でのスピーチの冒頭というシチュエーションから、「私は」 「今日」「世界の大学」というキーワードから上文を推測するのは難しくないですね）

【真実】【私は一度も卒業しなかった】【大学】

➔「実を言うと、私は大学を卒業したことがありません」

この文は聴き取れた語句・表現から、そのまま理解できますね。

【これが一番近い】【大学の卒業式】

➔「これが、私にとって大学の卒業式に一番近い体験になります」

この部分は少し想像力が必要かも知れませんが、「これが一番近い大学の卒業式」ということで、さらにジョブズ氏は大学を卒業したことがないというのですから、今回のスタンフォード大の卒業式に参加出来たこ

とが、ジョブズ氏にとっては、もっとも「卒業式」に近い体験となった…ということを言っていることが想像出来るのではないでしょうか。

【今日】【私は~したい】【三つの話】【私の人生】

➔「今日私は、私の人生（経験から）三つの話をしたいと思います」

これもほとんど聴き取れた語句から内容が想定出来ますね。

というわけで、如何でしょうか。すべての語句・表現を完璧に聴き取れなくても、聴き取れたキーワードから内容を推測して理解することが出来ることが分かって頂けたのではないでしょうか。というか、これが自然な英語の聴き取り方であり、まさに私が実践している（または英語を聴き取れる日本人が普通に行っている）英語の聴解法そのものということです。

ここで、実際に聴き取れた内容が正しいかどうか、もう一度スティーブ・ジョブズ氏のスピーチ音声と確認してみましょう。次頁に実際にディクテーションしたものを記載します：

* 以下、2005 年スタンフォード大学卒業式におけるスティーブ・ジョブズ氏のスピーチ冒頭部分の引用：

（引用ここから）

I am honored to be with you today at your commencement from one of the finest universities in the world. Truth be told, I never graduated from college. And ah, this is the closest I've ever gotten to a college graduation. Today I want to tell you three stories from my life. That's it. No big deal. Just three stories.

（引用ここまで）

ここで、先ほど聴き取れた単語のみを強調してみましょう：

I am honored to be with you **today** at your commencement from one of the finest **universities in the world**. **Truth** be told, **I never graduated** from **college**. And ah, **this is** the **closest** I've ever gotten to a **college graduation**. **Today I want to** tell you **three stories** from **my life**. That's it. No big deal. Just three stories.

そして、以下が和訳です：

「本日、世界に名立たる名門大学の卒業式に出席出来たことを光栄に思います。実を言いますと、私は大学を卒業したことがありません。ですので、今回が大学の卒業式に参加することに最も近い体験となります。今日は、私の人生から三つの話をしたいと思います。それだけです。別に大した話ではありません。たった三つの話だけです。」

さて、ここで聴き取れた語句のみから想定し理解できた内容をもう一度確認してみましょう。

「今日、世界に誇る名門大学でスピーチ出来ることを光栄に思います。実を言うと、私は大学を卒業したことがありません。これが、私にとって大学の卒業式に一番近い体験となります。今日私は、私の人生（経験から）三つの話をしたいと思います。」

いかがでしょうか、詳しくディクテーションして和訳した内容と、キーワードから想定して理解した内容との間に大きな違いがあるでしょうか？以下はディクテーションからの厳密な和訳です。比べてみて下さい：

「本日、世界に名立たる名門大学の卒業式に出席出来たことを光栄に思います。実を言いますと、私は大学を卒業したことがありません。ですので、今回が大学の卒業式に参加することに最も近い体験となります。今日は、私の人生から三つの話をしたいと思います。それだけです。別に大した話ではありません。たった三つの話だけです。」

以上が、推測によるリスニング・メソッドの一つの例です。英語を既に聴き取れるようになっている日本人は、こういったプロセスで、英語を聴き取り、理解しているということをご理解頂けたでしょうか。

英語の音声を聴き取るとなると、すべての語句を一言一句厳密に聴き取って理解しなければ…という強迫観念に捉われている人が多いですが、実際にはそんな厳密な聴き取り方をしなくても大丈夫です。ここは本当に重要なポイントですので理解しておいて下さい。

聴き取れた語句・表現から内容を推測するコツ

英語のリスニング法については、そのメカニズムや理論をこれまでに教本やメルマガ、メール講座等で何度も解説してきたのですが、聴解法を理解しても実際の聴き取りが出来ない…という人がとても多いです。それは、例えばゴルフを始めた人が、スイングの仕方を教本や DVD 教材で覚えたとしても、実際にボールを打つことが出来るかと言えば、そういうわけではないのと同じですね。要するに、実践の部分が重要ということです。方法だけを頭で理解しても、それだけでは足りないということですね。そこで、実際に英語を聴き取る際のプロセスをご紹介したわけですが、ここで難しいのは、聴き取れた語句や表現から内容を想定する…という部分です。リスニングが出来るか出来ないかは、ある意味ここにかかっているとも言えます。ここで重要なことは「**大胆な想像力**」です。例えば、先ほどのスティーブ・ジョブズ　氏のスピーチの一節をもう一度見てみましょう：

And ah, this is the closest I've ever gotten to a college graduation.

この文の中で、あなたが聴き取れた語句が **this is the closest** 「これが一番近い」と **college graduation**「大学の卒業式」だけだったとします。ここで想像力のない人（または想像力を使おうとせずに、聴き取れた語句のみで理解しようとする人）は、文字通り「これが一番近い大学の卒業式」という意味にしか取ることが出来ません。しかし、少しでも想像力を働かせることが出来れば、その前に「**私は大学を卒業したことがない**」という一節があることから、ジョブズ氏にとっては「最も近い大学の卒業式」＝「**私にとっては大学の卒業式に出席するという体験に最も近いことです**」という内容を想像することが出来るわけですね。

リスニングの内容を想像したり、推測したりする上で重要なのは以下の要素です：

① 既に知っているバックグラウンド情報（対象に関する情報等）
② 前後の文脈の流れ
③ 一般常識（誰もが普通に考える、普遍的な常識・当然のこと）
④ 相手の身振り・手振り・表情や話し口調・様子
⑤ 相手を自分の立場に置き換えて「自分だったら」と推測すること

既に知っている情報（既知の情報）というのはとても大事です。例えばジョブズ氏のスピーチでは「スタンフォード大学の卒業式でのスピーチ」というシチュエーションが、内容を理解する上での大きな鍵となります。冒頭で **I'm**「私は」、**today**「今日」、**universities in the world**「世界の大学」というキーワードが聴き取れたとしたら「今日は世界的に有名な大学でスピーチを出来ることを光栄に思います」的な挨拶の序文であると推測出来ますね。

英会話においても、まったく見ず知らずの人と話す…というシチュエーションよりは、多少相手に関しての知識があったり、または共通の認識があったりして初めて会話が行われるわけですから、言葉だけの情報ではなく、元々知っていた情報や既にわかるシチュエーション等から推測できることは多いです。

前後の文脈も大切です。先ほどの「私は大学を卒業したことが一度もない」という一節に関しても、それがあるから「最も近い大学の卒業式」＝「私にとっては大学の卒業式に出席するという体験に最も近いことです」という内容の推測が可能になるというわけですね。

また、一般常識も重要です。日本人は受験英語とか TOEIC で「ひっかけ問題」や「意地悪問題」ばかりに痛めつけられ過ぎていて、どうしても**疑心暗鬼**になって英語を聴く人が多いです。普通に考えたら、そんな馬鹿な…と思えるような奇想天外な内容を勝手に想像してしまう人が多いのです。常に落ち着いて、一般的な常識の面から内容を推測してみましょう。それだけでかなり聴解力が向上するはずです。

それから相手の表情や口調、ジェスチャーというのも大きな鍵となります。リスニングが得意な人は、相手の表情や口調、ジェスチャーといった些細な表現の違いから内容を正確に推測することが出来るのです。

そして、それが出来るのは相手の気持ちと自分の気持ちを置き換えて考えているから…とも言えます。つまり、自分だったらこう言うだろう、相手はこう言わんとしているのだろう…という、相手の立場になった考え方ですね。それが出来る人はリスニングが強いのです。リスニング力の向上は、まさにあなたの「想像力」や「推測力」の鍛錬であると考えて下さい。

日本語に近い感覚で聴き取れるようになるには

私たちは幼児の頃から日本語を使っているわけで、そのような母国語と同じような感覚で英語を聴き取れるようになるには、かなりのトレーニングが必要です（というか、100％完全に日本語と同じ理解度で聴き取るのは不可能です）。しかし、母国語である日本語でも私たちはすべての語句を一語一句厳密に聴き取り、それを読むように理解しているわけではないということを知っておいて下さい。

私たちが日本語を聴き取る際も、結局は「**断片的な情報（脳が重要だと判断した語句）**」から全体の意味・内容を推測して理解しているのです。ただ、その「脳が重要だと判断して聴き取った情報」の量が、日本語の場合は英語より遥かに多いというだけの違いですね。ということは、日本語を聴き取るような感覚で英語を聴き取れるようになるには…つまり、その「聴き取れた情報」の量を出来るだけ増やせば良いだけの話です。

英語の聴き取りの場合、その「聴き取れた情報」というのは一体どういうものでしょう？それは簡単に言ってしまえば**【あなたが既に知っている語句や表現（ボキャブラリー）】**ということです。もっと言えば、あなたの脳の中にインプットされている単語であったり、パーツであったり、フォームであったり、或いはラインそのもの（表現・フレーズ）であったりするというわけです。このような英語の語句や表現のストックが多ければ多い程、断片的にでも聴き取れる（聴き取って理解出来る）情報が多くなりますので、英語であっても母国語である日本語と同じような感覚で理解することが出来るようになります。

そのためにあなたが今すべきことは、純粋な聴き取りの練習だけでなくインプット系のトレーニングを通じて、出来るだけ多くのライン、パーツ、フォームといった英語の要素を知り得るということです。

ただし、出来るだけ多くとは言っても、あなたの英会話に必要のないものまで覚える必要はありません。例えば、あなたが製薬会社に勤めているとします。当然、仕事で使う英語は製薬関連（医学や薬学）に限られるわけですが、仕事での英語力に特化するのであれば専門外のラインやライン・パーツ、単語といったものを覚える必要はないのです。もちろん、余力があれば覚えても構いませんが、まずは効率を考え、あなたの英語力に必要な分野の語句や表現から優先して体得すべきです。

リーディングもそのようなライン、パーツ、フォームといった慣用表現・ボキャブラリーを身につける上では大切なトレーニングです。確かに、リーディングは「書き言葉」ですから、リスニング用のボキャブラリー対策には向かないという考え方もありますが、インタビュー記事であったり、会話文がそのまま書き起こされているようなタイプの英文であったりすれば、リスニングにも役立つ口語表現等をたくさん抽出することが出来ます。ニュース記事でも人の発言内容等は、そのまま口語で記載されていることが多いからです。

したがって、リスニング力を向上させたいからといって、リスニング・トレーニングばかりにこだわることはありません。そのためにはリーディングや、スピーキング、さらにはライティングの練習であっても大いに役立つことがあるのです。英語の習得は常に、**多角的**に、**包括的**に攻めてみましょう。

疑心暗鬼にならないこと

先ほども少し言及しましたが、日本人は英検や TOEIC、そして大学受験など「間違えさせるための問題」「ひっかけ問題」といった、いわゆる意地悪問題に晒され過ぎているわけです。つまり、あまりに多く騙され続けてきた為、純粋な気持ちで英語と接することが出来なくなっている人が多いと感じます。英語の音声を聴いても、もしかしたらそんな簡単なことではなく、もっと難しい、複雑なことを言っているんではないだろうか？と、常に疑いの目ならぬ耳で英語音声を接しています。もう完全に**「疑心暗鬼」**になってしまっているんですね。こうなると、純粋な気持ちで英語を聴き取れなくなってしまいます。

英語だって人間の言葉に過ぎません。日本語と同じように、日常的な、一般的なことを伝えたり、表現したりするために使われているコミュニケーション・ツールなのです。ちょっと落ち着いて考えてみれば、常識的に簡単に理解出来るようなことを「また何か難しいことを言っているんじゃないか？」という疑いの耳で聴くと、どうしても正確に内容を把握出来なくなってしまいます。

これはリスニングだけでなく、リーディングでも言えることですね。そんなに難しく捉えなくてもいいのに、どういうわけか英語となると、正常の感覚・常識で内容を捉えることが出来なくなってしまうのです。ここでも言えることは、とにかく**英語に対するメンタル的な「恐れ」「特別感」を排除すること**です。英語であっても日本語であっても、何ら変わることはないのです。日本語と同じような感覚で接すれば簡単に聴き取れるようになりますし、読解できるようになるはずです。

「生の英語音声」を使った聴解トレーニング

さて、それでは実際に毎日のリスニングのトレーニングとして、一体どのような練習を実践すれば良いのか？という具体的な方法と手順のお話に入りたいと思います。

まず、リスニングの練習用素材（英語音声）についてですが、初心者はともかく、中級者・上級者レベルを目指されている方は出来るだけ早い時期にリスニング教材付属の英語音声ではなく、YouTube の英語動画や洋画・海外ドラマといったネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードの英語（産地直送の「生の英語音声」）を使った高負荷のトレーニングを実践されることをお勧めします。

その理由として、教材などに付属のプロのナレーターによる音声が不自然な英語（あまりにもきれい過ぎる「正しい英語」）であることが挙げられます。これは日本語でも同じことが言えますが、基本的に日常生活で私たちが交わしている口語の言葉というのは、文法もメチャクチャ、短縮や省略ありまくりの（笑）かなり「粗削りな言葉」と言えます。そして英語においても、口語の英語はかなりラフでブロークンです。これに慣れるようにしないと、いくらリスニング教材付属の「きれいな英語（ある意味人工的で不自然な英語）」で練習を続けても、いつまで経っても実際の「本場の英語」を聴き取れるようにならないというわけですね。

そこでお薦めしている英語音声素材のソースは、やはり何と言っても**YouTube の英語動画**です。何よりもこれらは全て無料、好きなだけ聴き放題で英語圏の「産地直送！ピチピチの生の英語」を使ってリスニングの練習が思う存分出来るという最高のソースというわけです。

リスニング向け YouTube 英語動画のジャンル

ただ、一度でも YouTube で英語動画を検索したことがあればお分かり頂けると思いますが、意外とリスニングの練習向け動画を探すのは骨が折れる作業です。第一、どんなキーワードで検索すれば良いのかわかりませんし、膨大な数の投稿動画から適切な一本を選び出すのは至難の業と言えるかも知れません。そこで、以下に YouTube の英語動画の選び方についてまとめておきますので参考にしてみて下さい。

１．自分の興味・関心の対象のキーワードで探す

英語の学習だから…といって、何も真面目な内容の英語音声をリスニングの練習に選ばなくてはならないといった決まりはありません。特に、自分が「楽しい！」「面白い！」と思える英語動画は、英語の勉強・トレーニングを忘れて視聴に没頭出来ます。そのようなモチベーションがあれば、時に辛くなりがちなリスニングの練習であっても楽しく続けることが出来るはずです。あなたの趣味や得意分野に関するキーワードを英語でどんどん探してみましょう。ちなみに私は音楽（古いシンセサイザー）や海水魚飼育に関する英語動画を YouTube でよく視聴していますが、楽しいので時間を忘れて見入ってしまいます。

２．ノウハウ系の英語動画

これは How to ～、つまり「ハウツー系」の動画になりますが、例えば DIY の日曜大工的内容から Life Hack 的な内容等、ノウハウを紹介している動画はリスニングの練習用素材としてピッタリです。たいていはわかりやすい映像と共に聴き取りやすい解説がありますので、初心者にもお勧めです。ただし、たまに映像のみ…というパターンもありますので注意が必要です。How to ～といったキーワードと共に検索してみましょう。

3．洋画や海外ドラマ等の Trailer

Trailer というのは「予告編」のことで、teaser と言うこともあります。最新作の映画はもちろん、旧作や名作の Trailer もたくさんアップロードされていますので、ぜひあなたの好きな作品の Trailer を検索して視聴してみて下さい。動画によっては CC（Closed Caption：字幕）を表示させることも出来ます。また、日本版が出ている場合には日本向け Trailer で内容確認することも出来ますね（ただし日本版と英語版の Trailer は構成が異なることが多いです）。

4．ジョーク系・お笑い系の動画

これもとてもおススメなのですが、基本的に英語の学習というと真面目な顔をしてやる人が大半ですよね。しかし、勉強だからといって何もしかめっ面をしてトレーニングを続ける必要はありません。YouTube にはたくさんのジョーク動画、お笑い動画、あるいは放送事故や思わず吹き出してしまうような面白い日常生活の投稿動画がアップされています。こういった「自然な英語」を毎日聴き取る習慣をつけると、1 ヶ月もすればリスニング力が相当向上するはずです。

5．洋楽（英語の曲・音楽）の動画

あなたは英語の曲（洋楽）が好きですか？私は中学生の頃から洋楽が大好きで 70 年代、80 年代の洋楽を今でも毎日聴きまくっています。もちろんもっと前の世代のビートルズやカーペンターズやいわゆる「オールディーズ」と呼ばれているジャンルの曲、さらにロックやジャズも大好きです。そして、実はそんな「洋楽」を聴いていると英語のリスニング力が劇的に向上するのです。その理由は…英語特有のリズムや韻の踏み方がわかるようになるからです。ある ESL のインストラクターは英語を喋る時「唄うように話すと良い」と指導されています。まさに英語は「音楽的」な言葉ということですね。

6. ESL インストラクターによるレクチャー動画

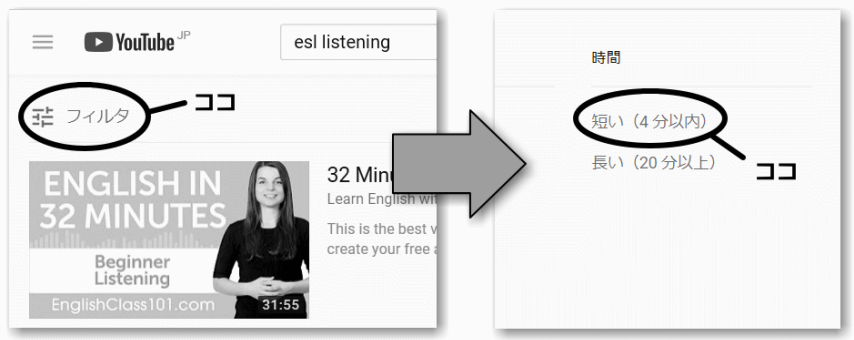
これも非常にお薦めです。ESL というのは English as a Second Language の略で、いわゆる海外の英語学校（あるいはそのシステム）を意味します。YouTube 上には海外の ESL インストラクターが YouTuber として活躍しているケースが多く、どのチャンネルも大変人気が高いです。ただし、驚くことにその登録者・視聴者のコメントに目を向けるとほとんどが「日本人以外」のノンネイティブ・スピーカーばかりなのです。なぜかと言うと、日本人は「英語がわからない」ので、英語による英語レクチャー動画を視聴する人が少ないわけですね。しかし、これはとても勿体ないことで、珠玉の ESL インストラクターによる英語レクチャー動画が YouTube 上にたくさんありますので、ぜひ検索してみて下さい。検索キーワードは ESL＋〇〇（〇〇には listening とか grammar 等々、あなたが知りたい英語学習に関連するキーワードを入れて下さい）。

7．英語圏のＴＶコマーシャル動画

リスニング・トレーニングにあまり長い時間をかけられないという忙しい方にピッタリなのが、この英語圏のＴＶコマーシャル動画を使った練習です。これらのコマーシャル動画は長くても 1 分以内、たいていは数十秒の長さですので、毎日のスキマ時間などに実践出来るちょっとしたリスニング・トレーニングには最適の素材と言えます。しかも、内容はコマーシャルですから、一般向けでわかりやすく、発音も明瞭なものが多いです。一方で、口語特有の表現やスラングなど、英語圏の人々が日常生活で口にしたり、耳にしたりしているごく自然な「生の・本場の英語」が使われていますので、より実践的な英語表現を学ぶことが出来ます。これも commercial ＋〇〇（〇〇には商品名や製品名、メーカー名）で検索すると良いです。また毎年 Super Bowl の季節には面白い CM が多く出ますのでそんなのを検索してみても良いでしょう。

YouTube 英語動画の検索時の注意事項とコツ

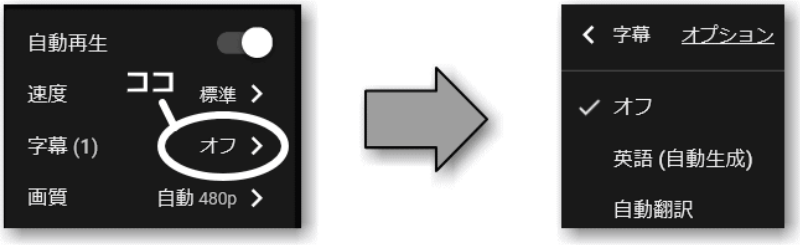
さて、リスニング向け素材のジャンル・種類についての説明の次は、実際に動画を検索する際のちょっとした注意事項とコツについてお話しさせて頂きます。先ほど「TV コマーシャル」の所でも少し書きましたが、リスニング・トレーニングにあまり時間をかけていられない…という方も多いことかと思います。その場合、検索時のちょっとしたコツとして、動画がズラリと並んだ画面の一番上に「フィルタ」とありますので、ここで時間を「**短い（4 分以内）**」にすると短い動画のみが表示されます。



長い動画でも構わないのですが、通常リスニングの練習というのは短い動画を繰り返し視聴した方が効果的ですので、30 分とか 1 時間といった動画は最初のうちは避けた方が良いかと思います。もちろん、長い動画であってもその中の一部分を繰り返し視聴することも出来ますので、この辺りは好みで選んでみて下さい。

CC（クローズド・キャプション）について

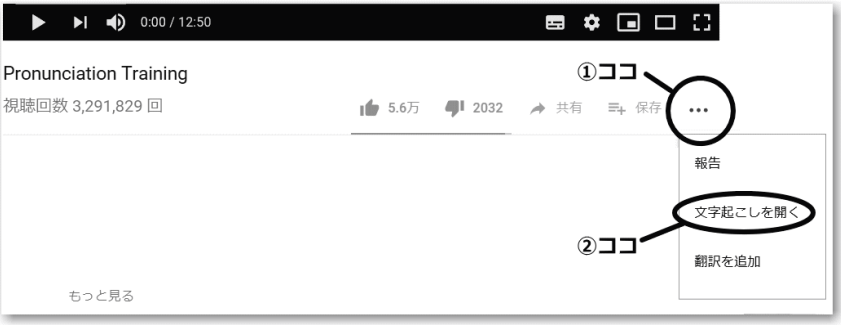
YouTube に動画をアップロードしたことがある人ならわかると思いますが、動画には CC（クローズド・キャプション）を任意でつけることが出来ます。CC とはいわゆる字幕のことで、耳の聞こえない人用に目で内容を確認出来るようにしたものです。動画によってはオリジナルの字幕（動画をアップロードした人が最初から付けた字幕）と、自動生成の字幕の二種類があります。前者の場合は正しい字幕内容となりますが、後者の場合はかなりいい加減（ただ、最近は精度が向上しましたが）なので注意が必要です。CC の表示の仕方は簡単で YouTube 動画の下にある再生バー右下に以下のような表示（おでんの「ちくわぶ」の輪切りみたいなアイコン＝「設定」）があるのでクリックして下さい：



「英語（自動生成）」の場合はかなりいい加減な字幕の可能性がありますが、まぁ、何も無いよりは参考になるかと思います。

文字起こし機能の使い方

さらに便利な機能として「文字起こし機能」というのがあります（動画によってあるものと無いものがあります）。これは以下のように動画の右下にある「…」マークをクリックし「文字起こしを開く」をさらにクリックすることで動画右側に文字起こしを開くことが出来ます。

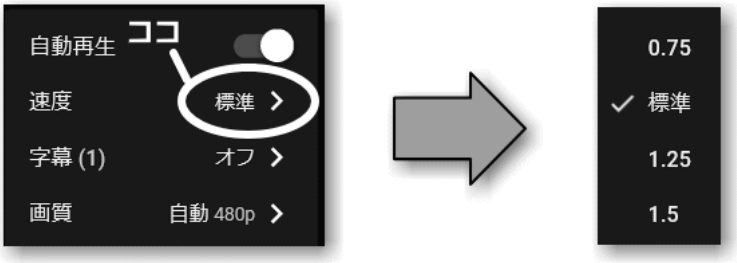


さらに右上の⋮をクリックして「タイムスタンプ表示を切り替える」で時間表示を消すことも出来ます。

YouTube 動画の再生速度を変えるには

英語のリスニングで難しいのはやはり「速さ」ではないでしょうか。早口でまくしたてられると、それだけで聴き取れなくなってしまう人は多いです。そこで、練習の時点では遅くし（あるいは速くして耳を鍛える人もいますが！）聴き取りやすくするとトレーニングがやりやすくなります。

お使いのブラウザが最新バージョンであれば基本的には問題なく再生速度を変えることが出来るはずです。これも方法は簡単で、まずは先ほどの CC の設定の時と同じように動画の設定アイコン（ちくわぶの輪切りみたいなの）をクリックし「**速度**」を選んでお好きな再生速度に変えます。



「0.5」「0.25」にすれば 50%、25%のように再生速度を遅くすることが出来ますのでリスニングしやすくなります。逆に耳を鍛えたいという方は「1.25」「1.5」「2」のように速くすることが出来ますので、色々と試してみて下さい。ちなみに速度を上げた英語に慣れると、標準の英語を聴いた時にかなり「スロー」に感じられます。週末や連休中に早口の英語に慣れておくと、休み明けには相当な変化を実感頂けるはずです。特に TOEIC の試験前などには効果的ですのでお試し下さい。

YouTube 英語動画を使ったリスニング練習の実践

さて、それでは YouTube 等でリスニング練習用の素材（英語動画）を適切に選んだとして、お次はその英語動画を使った実際のリスニング・トレーニングの手順について詳しくお話ししましょう。

まずは、純粋に何も考えずに動画を視聴してみて下さい。その時、タイトルやコメント、あるいは視聴者の投稿メッセージ等に目を通しておくと、大体の内容が推測しやすくなります。

次に、今度は英語に集中しながら内容を理解するように視聴してみます。このとき、一言一句集中して聴き取るのではなく、全体的にやんわりと把握するように聴き取ると理解しやすくなります。これは既にお話ししたことですが、虫眼鏡で見るように細かく英語を聴き取ろうとすると、途端に全体が見えなくなるのと同じことです。そうではなく、一歩下がって全体を捉えるように視聴してみて下さい。「木を見て森を見ず」という状態にならないことが、何よりのリスニングのコツというわけです。

大体の内容がわかれば、紙などに要旨を箇条書きでまとめてみると良いです。このとき、英語で書いても、日本語で書いても構いません。「書く」という行為で、本当に理解出来ているかどうかを確認出来るようになります（理解していなければ書けないので）。字幕（CC:クローズド・キャプション）が表示可であれば、それを参考に内容の確認（答え合わせ）を行うと良いです。きちんと理解できたか、あるいはどこを間違えたのか、色々と自分で分析してみると力がつきます。

最後に、知らなかった英語の語句や表現あれば、これらをまとめてノートに書き出し、きちんと辞書をつかってそれぞれの意味を理解し、覚えるようにしましょう。

出来れば新しく知り得た語句や表現を使って、あなた専用の英会話向けのセリフ（ライン）を作り音読して覚えてから実際の英会話等で積極的に口に出して使ってみると、より効果的に覚えることが出来ます。

なお、一連の英語動画選びからトランスクリプト(字幕)の入手、和訳や覚えるべき語句・表現等々、独学ではなかなかトレーニングの実践が難しい！と感じられる方もいらっしゃるかと思います。実際、リスニング・トレーニングに最適な英語の音声動画を探すのに何時間もかかってしまって、実際の英語学習の時間を潰してしまっては本末転倒ですね。

そこで、本書の最後に「**ラインマスター式英語・英会話習得法**」をそっくりそのまま全て「おまかせ」で実践頂くことが出来る特別なプログラムをご紹介させて頂きたいと思います。このプログラムにご参加頂くことで、特にリスニング・セクションでは毎回、興味深く楽しい YouTube の英語動画を、トランスクリプトや和訳・解説と共にあなたにどんどんご紹介させて頂きますので、あなたは貴重な英語の学習時間を無駄にすることなく、毎日楽しく英語のリスニング（そしてスピーキングも！）の勉強・トレーニングを実践頂くことが可能です。

詳しくは毎日お送りしているメールセミナーに記載のプログラム紹介ページをチェックしてみて下さい。きっと気に入って頂けることと思います（プログラムに関するご質問・ご相談等がございましたら、お気軽にメール下さい。メールセミナーへの返信で私・渡邉まで直接届きます！）。

おわりに

さて、ここまで「**ラインマスター式英語・英会話習得法**」について詳しくお話ししてきましたが、如何でしたか？何となくは分かったけれど、まだちょっとよくピンとこない…という方もいらっしゃるかも知れませんね。

これは本書の中でもお話ししましたが、やはり英語のようなスキルは、例えばテニスやゴルフといったスポーツのスキルと同じで、教則本や参考書を読むだけでは意味が無く、実際にやってみて初めて「**なるほど、こういうことか！**」と納得頂けるものです。そこで、本書を最後まで読んで頂いたあなたには是非、今すぐに「ラインマスター式英語・英会話習得法」の実践に挑戦して頂ければと思います。

難しいことは何もありません。まずは本書で紹介した通り、あなたが英会話で外国人相手に伝えたいこと、表現したいことをノートに書き出し、それを英語にして口から出してみて下さい。文にするのが難しければ箇条書きでも構わないのです。何よりも「あなたが話したいこと」が何なのかを明確にすることが重要です。そして機会があれば、そんなあなた専用のセリフ（ライン）を外国人に投げかけてみて下さい。その一言が通じた時の喜びは何事にも代えがたいものです。

そして、英語を聴き取れるようになりたいのであれば、ぜひ YouTube の英語動画（産地直送の「生の英語音声」）を使った高負荷のリスニング・トレーニングを始めてみて下さい。これならお金も時間もかけず、今すぐに開始出来るはずです。そして、そんなスピーキングとリスニングのトレーニングを毎日の習慣として続けて頂ければ、30 日後には必ず何らかの変化を感じて頂けることでしょう。

いずれにしても重要なことはノウハウを知ったら「**今すぐに行動に移す**」ということです。私の周りには英語を話せる日本人がたくさんいますが、皆「行動派」です。「よしやってみよう！」と思ったら、次の瞬間には既に行動に移しています。

もちろん、それで失敗することもあるでしょう。例えばラインを準備して英会話に臨んだけれど、ちっとも話すことが出来なかった…とか、あるいは高負荷のリスニング・トレーニングを実践したけれど、今日はあまりよく聴き取れなかった…とか、そういった失敗は英語学習につきものです。

しかし、本書の中でもお話しした通り、そんな「失敗」は全てあなたの英語力向上の為に今後必ず役立つものです。うまく話せなかったら、どこを修正すれば良いのだろう？と考えてみて下さい。必ずどこかに改善すべき点が見つかるはずです。よく聴き取れなかったら、原因を考えてみて下さい。語彙不足なのか、英語が速過ぎるのか、厳密に聴き取ろうとし過ぎているのか？いずれにしても、どこかに是正すべき点があるはずです。

そうやって、一つ一つの失敗をクリアして、もちろんたくさん「恥をかいて」英語を話せるように、また聴き取れるようになっていきます。英語の習得における「失敗」や「恥」は、**あなたの勲章**のようなものだと思って下さい。私もたくさん失敗し、恥をかいてきました。しかし、そのおかげで今自信をもって英語を話せるように、聴き取れるようになっています。だから、失敗することや恥をかくことを恐れずに、今すぐ「行動」に移して頂きたいのです（むしろ、どんどん積極的に失敗し、恥をかいて下さい）。

ご存知の通り、現在日本中に多くの外国人が訪れています。こんな辺鄙な田舎に？という場所でも、普通に路上で外国人に英語で話しかけられた…なんていうことがある時代です。もう「英語が話せたらいいなぁ」なんて言っていた時代はとっくに終わっていて、今や若者から年配者までを含め、日本人の誰もが「**英語を話せて当たり前！**」の時代に入っているということです。

そんな時代に、本書でご紹介した「ラインマスター式英語・英会話習得法」が少しでもあなたの英語学習のお役に立てるのであれば大変光栄に思います。末筆ながら、あなたの英語力の向上を心よりお祈り申し上げます。ご質問・コメント等あればいつでもお気軽にメール下さい。

それでは、英語の学習を楽しみながら続けて下さい。応援しています！

医薬通訳者・翻訳者

渡邉　英喜

「ラインマスター英語・英会話習得法のすべて」ここまで

ラインマスター式英語・英会話習得法のすべて

2018 年 10 月 1 日初版発行
2020 年 11 月 1 日一部改訂

著者　　渡邉　英喜（医薬通訳者・翻訳者）
発行者　株式会社ロフティ出版

本書の無断での複写・コピー、ウェブ上での公開、
オークション等を含む二次配布を禁じます。